

岡田斗司夫の

2013

1月号

# クラウドシティ

あなたのライフスタイルを豊かにする雑誌

sample



創刊特集 アメリカ商品 他

## ま、金ならあるし

## 岡田斗司夫のお買い物日記

### 岡田斗司夫のクラウドシティ

クラウドシティは他のSNSと違う

選り抜き!クラウドシティ

「クリエイターとして始めてお仕事をいただきました!」

「岡田先生、飯奢らせてください!」「岡田斗司夫に簡単に会う方法」

「みんなそんなに岡田さんに会いたいのか?」「岡田斗司夫の投票戦略」



毎月末 配信

月額 315円

## ジェットストリーム連載開始

## 人生の法則 評価経済社会

## あなたを天才にする スマートノート

## 岡田斗司夫のクラウドシティ入門

---

当コーナーの内容は、『岡田斗司夫なう。』『クラウドシティなう』にて公開される内容と同様のものとなっております。

クラウドシティには岡田斗司夫やFREEEXの膨大なコンテンツが眠っています。

せっかく市民になったんだから、まずコンテンツを楽しんでみましょう。

そのまま読めるものもあるし、ダウンロードして鑑賞する映像や、通勤途中のiPodから聞ける「耳で聞ける書籍」もあります。

また完成コンテンツだけではなく、その制作や打合せ過程がすべて見える、というのもクラウドシティの魅力です。

初心者のために「岡田斗司夫のいる場所・まとめ」を作ってみました。

僕はだいたい以下の場所で仕事してます。

定期的にこのリストは更新して、僕の日記に張り出します。

リンク切れなどあれば教えてください。

「これがないのはヘン？」というの発見した人は、短縮リンク込みで指摘して頂けるとありがたいです。

---

### 1. 初級編「視て・読んで・聞いて楽しめるアーカイブ」

クラウドシティでは、完成された講義やエンターテインメントが提供されています。

【岡田斗司夫ゼミinクラウドシティ】

2012年11月より開設した新コンテンツです！クラウドシティ「つぶやき」欄の上部にできたUstream画面で、岡田斗司夫のクラウドシティ向け講義を配信しています。

このパスワードは他言無用です。ブログ、Twitterなどに貼付けないでください  
観た人はコメントに一言感想を残したり、自分の日記に書いたりしてください。

【映像・youtube@クラウドシティ】

(<http://go.otaking-ex.com/S2Ji43lu>)

クラウドシティ最大の資産のひとつ、岡田斗司夫やFREEEX映像のライブラリです。90件以上、200時間を超えるデータベースです。

他では見られないクラウドシティ限定映像も公開しています。

この映像のURLは他言無用です。ブログ、Twitterなどに貼付けないでください  
観た人はコメントに一言感想を残したり、自分の日記に書いたりしてください。

(<http://go.otaking-ex.com/qtWCfaVs>)

- ・【完全版】小林よしのり×岡田斗司夫「道德の時間」  
(<http://go.otaking-ex.com/GoLvsAJK>)
- ・海賊生放送「大学問題を考える～内田樹さんのブログを読んで」  
(<http://go.otaking-ex.com/kUMqWwV8>)
- ・FREE e x 参加説明会@大阪  
(<http://go.otaking-ex.com/T9h0hsyb>)
- ・ニコ生実況『新世紀エヴァンゲリオン』1～3 + 雑談コーナー  
(<http://go.otaking-ex.com/0eFqe689>)
- ・書評サイトHONZ取材 ノーカット動画  
(<http://go.otaking-ex.com/0NjZ2Ggr>)

【単行本@クラウドシティ】

(<http://go.otaking-ex.com/gftydLqU>)

クラウドシティ最大の資産のひとつ、岡田斗司夫の電子書籍データベースです。

『20世紀御最後の夜に』『人生の取扱説明書』『オタクはすでに死んでいる』『マジメな話 岡田斗司夫 世紀末・対談』『東大オタク学講座』『プチクリ!』『ぼくたちの洗脳社会』『おたくの迷い道・完全版』『「世界征服」は可能か』『なんでコンテンツにカネを払うのさ?』などがダウンロードまたは閲覧できます。

【連載・テキスト@クラウドシティ】

(<http://go.otaking-ex.com/NypEwKfh>)

クラウドシティ最大の資産のひとつ、過去に掲載や連載した記事やインタビューのアーカイブです。

メルマガ「FREE e x ニュース」のバックナンバーもここで見れます。

- ・c a k e s (<http://go.otaking-ex.com/DRJzzmNM>)

オンライン有料雑誌c a k e s (<https://cakes.mu/>)の岡田斗司夫連載「道德の時間」が無料で、公開前に読めます。

- ・アスキー連載→12月17日(月)号よりデザインリニューアル。岡田斗司夫の日記で読めます。

【音声@クラウドシティ】

(<http://go.otaking-ex.com/aLuefHS2>)

岡田斗司夫の講演の音声データのみを集めています。時間が無い方や通勤・通学の合間に講演内容を聞きたい人はここをチェック!

『y o u t u b e @クラウドシティ』のデータから音声ファイルを抜き出して勝手に登録する

のもOKです。市民によるデータベース製作参加は大歓迎！

---

## 2. 中級編「裏話・ここだけの話」

まだ執筆中の原稿や、プロ業界人とのやりとりが提供されています。

ドキドキしながら、のぞき見してください。

【仕事場 単行本企画室】 (<http://go.otaking-ex.com/Yx2cXDxS>)

クラウドシティ最大の資産のひとつ、岡田斗司夫やFREEexの著作の完全データベースです。

現在、進行中の単行本はすべてここで公開しています。発売前の生原稿も読めるし、タイトルや販売戦略の会議ものぞき見することができます。担当編集さんとの生々しい打合せも見学できます。

仕事場なので、打合せへの発言はFREEexメンバーのみとします。市民の発言はご遠慮ください。

出版済みのサロンには「感想書き込みトピ」があるので、読んだ人は一言感想を残そう！

- ・ 悩みのるつぼ(幻冬舎) (<http://go.otaking-ex.com/9hbjg2DS>)  
→発売中。増刷が決定しました。
- ・ 「いいひと」戦略 (<http://go.otaking-ex.com/5qtRk1Eo>)  
→1月24日(木)代官山蔦屋書店にてトークイベント。講演内容は天田さんたちにお任せ。
- ・ 「就職しないかも」本 (<http://go.otaking-ex.com/WuFeBnKk>)  
→タカシゲによる直し進行中。
- ・ 「国民スナフキン」本 (<http://go.otaking-ex.com/TGRLCYep>)  
→リュウタロウ対応中。
- ・ 「内田対談」本 (<http://go.otaking-ex.com/joxz7viD>)  
→前書きは内田さんが後書きを書いたら出す。全素材が揃ってから書く。
- ・ 「原子力とオタク」 (<http://go.otaking-ex.com/xt6FGBP8>)  
→電子書籍化検討中
- ・ 「モテとは戦略」 (<http://go.otaking-ex.com/02wFXPf2>)  
→メイクのユミが担当降りて、現在ぼくが預かり中。
- ・ 「戦闘思考力養成講座」ヴィレッジブックス  
(<http://go.otaking-ex.com/WFLFhuMF>)  
→電子書籍化検討中
- ・ 「スマートノート2」 (<http://go.otaking-ex.com/YS1RWLui>)  
→フミとタカシゲからの企画待ち

【仕事場 マスコミ会議室(単発)】

(<http://go.otaking-ex.com/OuMC0PXV>)

テレビや雑誌、新聞などの取材申し込みやその過程、インタビューのノーカット版などを公開しています。下のリンクの他にもいっぱいあるのでゆっくり見てください。

仕事場なので、打合せへの発言はFREEexメンバーのみとします。市民の発言はご遠慮ください。

読んだ感想は、自分の日記に書いたりしてください。

- ・【マイナビ】クローズドSNSの魅力についての取材

(<http://go.otaking-ex.com/WVRaIRHy>)

- ・NHK「サキどり↑ マンガの才能発掘（仮）

(<http://go.otaking-ex.com/h1hF7rAw>)

- ・雑誌『週刊エコノミスト』インタビュー

(<http://go.otaking-ex.com/H7I9T9R1>)

- ・雑誌BRUTUS「スター・ウォーズ」特集

(<http://go.otaking-ex.com/ET0RkNd3>)

【仕事場・ニコ生】 (<http://go.otaking-ex.com/A6tazYDP>)

ニコ生公式番組の企画会議や打合せが見れます。

仕事場なので、打合せへの発言はFREEexメンバーのみとします。市民の発言はご遠慮ください。

【仕事場 イベント企画・運営部】

(<http://go.otaking-ex.com/xxmdsEtU>)

現在、進行中のイベント企画がのぞき見できます。

仕事場なので、打合せへの発言はFREEexメンバーのみとします。市民の発言はご遠慮ください。

【その他 最新コンテンツ一覧】 (<http://go.otaking-ex.com/QBK7VwSf>)

---

### 3. 応用編「自分で参加する体験型プログラム」

観る・読むだけじゃない、参加するクラウドシティをお楽しみください。

【コメントハンター】 (<http://go.otaking-ex.com/dl2bQo85>)

これすごいです。岡田斗司夫のクラウドシティ内全発言、日記はもちろん、サロンや個人日記へのコメント・リンク集です。

有志によって毎日更新されています。

【岡田斗司夫ゼミ】 (<http://go.otaking-ex.com/SaSl66o>)

2012年8月末まで限定だったゼミだけど、現在はすべての市民に公開しています。

『教授への質問』 (<http://go.otaking-ex.com/9QfSRTr7>)

『ゼミ限定動画』 (<http://go.otaking-ex.com/ATGWyWMy>)

『ゼミ限定音声』 (<http://go.otaking-ex.com/fsK1GvrY>)

#### 連載アーカイブ

・週刊アスキー連載「ま、金ならあるし」

(<http://go.otaking-ex.com/l2yv3ZdO>)

・朝日新聞連載「悩みのるつぼ」

(<http://go.otaking-ex.com/KUalgPE2>)

・旧「悩みのるつぼゼミ」

(<http://go.otaking-ex.com/p6Xu1lab>)

#### 【講演予定】

1月24日(木) いいひと戦略トークイベント

(<http://go.otaking-ex.com/5qtRk1Eo>)

1月27日(日) NHK文化センター梅田教室 冬の講座

(<http://go.otaking-ex.com/JYM6Kc0W>)

2月10日(日) 「世界征服」は可能か? イベント(東京)

(<http://go.otaking-ex.com/nyjRKdYu>)

2月23日(土) 「世界征服」は可能か? イベント(大阪)

(<http://go.otaking-ex.com/nyjRKdYu>)

【Twitter公開読書ゼミ】 (<http://go.otaking-ex.com/qHDB3QjD>)

Twitter公開読書の過去ツイートまとめです。

市民有志によるまとめも掲載されています。

【仕事場】岡田斗司夫プレミアム (<http://go.otaking-ex.com/GXwDdzJ7>)

月額525円のブロマガ「岡田斗司夫のニコ生では言えない話」や、月額210円のまぐまぐ有料メルマガ「岡田斗司夫プレミアム」を一足お先に無料で閲覧できます。しかも編集にも参加できます。

市民ライターや編集者も募集中！。

【学生サロン】 (<http://go.otaking-ex.com/exXE6T6n>)

大学生たちとの交流サロンです。アカデミー枠で参加した市民は、ここに登録してください。

岡田斗司夫とFREEexは、学生への支援を自分たちの仕事のひとつとして位置づけてい

ます。

そのため、「アカデミー枠」というカテゴリで一年間参加費無料で学生さんたちのシティ留学を受け付けています。条件は「岡田斗司夫またはFREEexメンバーの承認を受けること」。

もし知り合いに「こいつ、面白い！」という学生さんがいたら教えてください。簡単な面談にパスすれば、留学招待状を出します。

・ B e t h e 1 s t (<http://go.otaking-ex.com/Orz0jPkk>)

→慶応大生や東大生たちが作ったサークル。

【FREEex 参加案内所】 (<http://go.otaking-ex.com/Hs7BDVzC>)

FREEexに興味ある人、参加したい人のための案内所です。

目次は本誌と同様のものとなっております。

岡田斗司夫の「クラウドシティ入門

## 目次

特集『ま、金ならあるし』岡田斗司夫のお買い物日記

創刊特集「ま、金ならあるし」～第1回～

1. 薄型テレビ（全2回） / 2. ワンフェスで犀を買う
3. AirMac / 4. ガンダムと天狗 / 5. ミシン
6. ムーンライナー / 7. セレブな下半身 / 8. 万博カフェ
9. お寿司 / 10. 映画 / 11. Tシャツ / 12. DVD
13. ニューブレラ / 14. タクシー / 15. レーシック
16. 殴るぞ犬 / 17. ドリームカー（全6回）
18. 海のオーケストラ号
19. 高級模型でも買うか（全3回）
20. アメリカ商品（全8回）

## スマートノート塾

スマートノート塾～第1回～

まえがき ノートで「楽に」天才になる

無理せず楽しく続ける

なぜノート術が続かないのか / 「天才」の条件とは？

2つの能力を持った場合 / 能力3つと2つの差

個々の能力の重要性 / なぜ「天才」を目指すのか

同時に3つ鍛える理由

スマートノートの段階（フェーズ）進行

第1フェーズ 5行日記をつける！

フェーズの重要性 / 名詞と動詞で / 書いたあとは忘れる

【コラム】ノート不要論に答える

私が見つけた”勝ち目” / 自信と思いこみのせいで

メモが”武器”という確信

【コラム】ノートは手書きで

効率を考えすぎない／発想のリミッターを外す

継続するための単純な仕掛け

## 豊かな生き方アカデミー

豊かな生き方アカデミー～第1回～

プロローグ 4タイプ判定テスト 岡田斗司夫は「注目型」

250人の教室が超満員に！

学生のタイプごとに話し方を変える

恋愛・友達関係からアニメ作りにまで活用できる

小説形式で臨場感を味わってください

「4タイプ判定テスト」を受けてみよう／4タイプごとの特徴

小説の舞台はとある高校の文芸部

1章 [小説] アヤノの物語ー優等生タイプの文芸部部长

2章 [解説] あなたにとっての幸せは何か

「やり遂げてもうれしくない」のはなぜか

人間を、その欲求によって分類する

4タイプは欲求の分類に対応する

ケンカにあらわれるタイプの違い

「嫌われたくない」にもニュアンスの違いがある

司令型が好きなのは「優位の確認」

人間関係のストレスを解消するツール

## 評価経済学論

評価経済学論～第1回～

まえがき／100年前の未来／50年前の未来

西暦2001年のオフィス／技術の進歩は社会常識を変える

「科学は死んだ」／トフラーの予言／堺屋の反論

経済的視点の限界／パラダイムシフト／若者の価値観を見る

ネット内のオカルト／チープ革命／私たちの内なるオカルト

最も大事なもの「今の自分の気持ち」

価値観は普遍なのか？

## 岡田斗司夫のクラウドシティ

### 岡田斗司夫のクラウドシティ～第1回～

クラウドシティは他のSNSと違う

#### 選り抜き！クラウドシティ～第一回～

- 1 「クリエイターとして始めてお仕事をいただきました！」
- 2-① 「歌舞伎役者とお付き合いするにはどうしたらいいですか？」
- 2-② 「岡田先生、飯奢らせてください！」
- 2-③ 「岡田斗司夫に簡単に会う方法」
- 2-④ クラウドシティのコメントを読み解く
- 2-⑤ 「みんなそんなに岡田さんに会いたいの？」
- 3 「岡田斗司夫の投票戦略」

#### 岡田斗司夫の楽しみ方

月刊「岡田斗司夫のクラウドシティ」創刊号 奥付

## 創刊特集「ま、金ならあるし」～第1回～

---

週刊アスキー連載中だった岡田斗司夫の『ま、金ならあるし～岡田斗司夫のお買い物日記～』をご存知ですか？

ダイエット本『いつまでもデブと思うなよ』、「家庭から夫をリストラせよ」のキャッチコピーで話題を呼んだ『フロン』や、『世界征服は可能か？』さらには、クリエイターとしての実体験などを赤裸々に書き綴った『遺言』など、いくつものベストセラーを世に送り出し、望む望まないにかかわらず、印税という名の大金を手にした岡田斗司夫の、お金に対するエピソードが人気を呼ぶ長寿コーナーとなりました。

このコーナーでは、週刊アスキーで掲載された内容を毎月まとめて大放し！

今回は特集号ということで、初回より全20エピソード（35週分）をクラウドシティより蔵出し公開します。

現在は、『岡田斗司夫の近未来日記』と名を変えて、同じく週刊アスキー内で大人気連載中です。

一足読みたいという方は、毎週発売の週刊アスキーをご購入いただくか、クラウドシティに入会していただければ読むことができます。また最新エピソードは、公式ブログ『岡田斗司夫なう。』で週刊アスキー発売後に毎週公開しておりますのでそちらでもお楽しみいただけます。

公式ブログ『岡田斗司夫なう。』 (<http://blog.freeex.jp/>)

クラウドシティ (<https://cloudcity-ex.com/>)

## 1. 薄型テレビ（全2回）

---

そうだ、でっかくて薄いテレビを買おう。

そういえば僕はもう売れない貧乏な物書きじゃないんだ。ダイエットに成功したので書いた本がいきなりベストセラーになった。莫大な、とは言えないけどそれなりに多額の印税が転がり込んでくる。いままで欲しくても我慢していたアレやコレも、どんどん買っちゃえばいいじゃん！

しかし問題は、僕自身の「買い物力」の低さだ。子供の頃から後悔するものばかり買ってきた。買ったその瞬間、お釣りを貰う前にもう後悔している。そんな買い物根性無しがこの僕なのだ。

しかし！そんな僕でもいまやベストセラー作家！家電や日用雑貨ていどなら「オトナ買い」できるんじゃないの？悩むぐらいだったら買えばいいじゃん？

だって、まあ、金ならあるんだし。

というわけではじまったこの日記。基本コンセプトは「岡田斗司夫が印税を使い尽くすサマを連載する」という悪趣味なものだ。第1回は「テレビ」。

いま使ってる32インチのブラウン管テレビは15年前に買った、重さ100キロ以上はあるシロモノ。ベストセラー作家なんだから、薄型液晶テレビ、買っちゃってもいいんじゃない？さっそく吉祥寺のヨドバシカメラAVフロアへと向かった。

とりあえず、まず50インチを見せられる。悪くない。いや悪くないどころか素晴らしい。ちょうど押井監督の「イノセンス」がデモ画面に使われていたけど、圧倒的な美しさだ。これでもいいかな？と思ったけど、なんとなく気になってしまった。あれ？なんで大画面テレビのデモ映像って、「世界不思議発見！」みたいな環境映像や、映像美を誇る映画ばかりなんだろう？

「やはり、そういった映像の方が美しさがわかりますから」とヨドバシの店員は教えてくれた。

いやいや、ちょっと待って。俺べつに毎日、映像美にひたりたいわけじゃないから。

ここから急転直下、店員と僕とのわけわかんない会話がスタートした。

---

テレビシリーズのガンダムで、毎回冒頭に「人類が宇宙に植民して半世紀～」とかナレーション入るよね？あれは「アバン」、正しくはアバンタイトルって言って、内容に入る前に「これまでのお話」とかを紹介するコーナーなわけだ。1ページの連載にアバンを入れてもしかたない。でもまだ連載2回目だから、いちおう「お約束」を説明させて欲しい。

この日記の基本コンセプトは「岡田斗司夫が印税を使い尽くすサマを連載する」という悪趣味なものだ。最初のお題は「テレビ」。吉祥寺のヨドバシAV館に薄型大型テレビを買いに行って、店員に50インチのやつを見せてもらったところまでで、前回は終わり。ここまでがアバン。次の行からが本編である！

「映像の美しさが違いますよ！」と力説する店員。しかし僕は懐疑的だ。「いや俺、ディスカバーチャンネルとか見ないし。大自然の美しさにもあんまり興味ないんだよね」「今年は北京オリンピックですよ。スポーツはやっぱり大画面ですよ。映画だって迫力が違います！」「悪いけど、スポーツも見ないんだ。他人が身体動かしてるの見て楽しむ趣味はないから。映画も内容がわかったら充分だし」

いっしゅんひるんだ店員は切り口を変えてきた。テレビを設置する部屋の大きさを聞いてきたのだ。つまり「部屋の大きさによって、おすすめのサイズがある」という理屈だ。

これも納得できない。テレビって予算や部屋のサイズが許す限り大きなものを買うべきなのか？そんなに大きなテレビ見たいか？だいたい、僕がテレビで見たいのは大自然の驚異でも映像美でもない。「やりすぎコージー」とか「さんま御殿」とかの世にもつまらないバラエティだ。つまりテレビを見るという行為は暇つぶしであって、番組はさしずめ駄菓子、テレビ自体は駄菓子の入れ物なのである。駄菓子にそんなに金かけてどうする？

それに、もし映像美に興味があるんだったら、でかいテレビ買ってる場合じゃないだろ。その前にレーシック手術したり精度の高いメガネやコンタクト買ったり、もっと根本の部分に金と手間をかけるべきじゃないの？ …とまあ、大演説になってしまった。思わぬ客の反論にフロア長まで登場して、「大型テレビ否定論」まで行きそうになってしまった。結果、僕は24インチという微妙なサイズのアクオスを買った。自分の信念通りの買い物、それもリーズナブルなサイズと価格を選んで満足である。

…さて、話はかわる。この話とはまったく関係がないことは言うまでもないので誤解のないように。今日の午後、僕はDVDで『スターウォーズ・帝国の逆襲』を見た。画面が、そう、なんと言ったらいいのか、…迫力的なものが、ちょっと物足りない的な、いささか残念的なカンジ…かもしれない？

あんまり大きな声では言いたかないけど、テレビは大きい方がいいかもよ。

## 2. ワンフェスで犀を買う

---

事務所でテレビの取材を受けるとき、かならずお願いされるポーズがある。「じゃあ美少女のフィギュア、それもできるだけ大きいのを持ってポーズお願いします」

愚かな。だいたい僕は美少女フィギュアなるものを一体も持っていない。

彼らが勝手に決めつけていた「画」が撮れないとわかると、次の質問はかならずコレだ。「じゃあこの中で一番の『お宝』はどれでしょう？」

「お宝」、つまり高価なものらしい。そう言われても困るなあ。

もちろん僕のコレクション、つまり「大阪万博やニューヨーク博覧会」「昭和の宇宙開発」「レトロなロケットや未来像」にもバカ高いものはある。オークションで競り落とすときに過熱しすぎ、乗用車一台分の金を突っ込んでしまった模型。SF文学の歴史に残る書籍で、ちょっとした不動産が買えるほどの稀覯書。どれもみんな、今よりずっとお金に不自由していた時代に無理して買ったものだ。

しかしそれは当時の僕にとって「買うしかない」ものであって、愛してやまない「お宝」かと言われても困ってしまう。

先日、僕は自分にとっての「お宝」を仕入れにでかけた。「立体造形者たちのフリーマーケット」とでも紹介すればいいのかな？ワンダーフェスティバル、略してワンフェスは年に二回、東京ビッグサイトで開催される模型やフィギュア好きにとって最大のお祭りだ。ガレージキットと呼ばれる、「インディーズのプラモデル」が中心だけど、アンティーク玩具やコスプレや、メーカーの新製品発表などもある。

といっても参加するディーラーの8割までが美少女フィギュア、残り2割を怪獣やロボットなどの造形なのはイマドキのオタクニーズに合わせてるから仕方ない。

今回の買い物で、僕が一番気に入ったのは「犀」だ。動物の、あのサイ。でもまるで怪獣みたいでしょ？

ルネサンス期の画家アルブレヒト・デューラーの作品に、友達から聞いただけで見たこともないサイを想像だけで描いた木版画、というのがある。このミニチュアは、そういう「存在しないサイ」の立体化だ。

人間の想像力は、時に本物を超えた異形を生み出すことがある。そういう瞬間を立体化した、このような作品こそ僕にとっての「お宝」なのだ。

### 3. AirMac

---

買った。

ついにAirMacを買ってしまった。まさか自分がApple製品を再び買う日が来るとは。嫌いなのかって？違う、その逆。好きすぎて憎くなってしまったのだよ。

思い起こせば1986年末、僕はたまたま秋葉原のショップで、Macプラスという最高に可愛くてカッコいいパソコンを見つけた。これなに？マウスっていうの？動かしたとおりに画が描ける！すごい!!これってまるで…そう、未来のパソコンだ！

大感動した僕は、たしか80万円以上も払って小さな小さな、モノクロ画面のパソコンとバックパック型の容量40メガのハードディスクを買った。総武線と中央線を乗り継いで、持って帰ってきた段ボール箱を開けると、そこには本当に「未来」があった。最初期のMacプラスほど、箱を開けたときに衝撃を受けた商品をいまだに僕は知らない。本体・マウス・キーボード・マニュアル。すべて、そのパッケージのされ方まで完璧でオシャレで、取り出すのがもったいなくて、泣きそうに感動した。

それからはひたすら伝道師の日々。会社のデスクに据え付け、あきれ果てるアニメーターや取引先の人たちにひたすら、Macがいかに素晴らしいマシンなのか、その指し示す未来とビジョンと無限の可能性を暑苦しく説き続けた。『電腦なをさん』に登場するハナモチならないMacユーザーとはまさに僕のことだったのだ。

毎週のように秋葉に通い、金の続く限りソフトや拡張キットを買う。しかしそんな蜜月も半年も持たなかった。Mac IIやSEなどという新機種が、高性能で安価な新型がどんどん登場した。最初は落ち込んだ僕も、性能アップという魅力には勝てなかった。クアドラ840AV、パワーマック8100と買い換え続けた。ついには20周年記念モデルとして、いまでは「悪名高い」と言った方が通りがいいスパルタカスまで80万以上する定価で買ってしまった。一年もしないうちにスパルタカスは20万程度で叩き売りされ、僕のMac熱は冷めた。「もう二度と、裸足でパソコンを作るリンゴ野郎の口車には乗らない！」と堅く誓った。…はずだった。

それが今や、もう超がつくほどのバカMacユーザーだ。どこへ行くにもAirMacを持ち歩く。ラーメン屋で並んでいるときにも無線スポットを探して開くしまつた。

バカだ。まさにMacバカ。そして人間とは、バカで愚かになり切れるほどに愛せるものを見つけるため、生きているのだ。少なくとも、次の安くて軽い新機種が出るまでは。

## 20. アメリカ商品（全8回）

---

学生時代、友達と一緒にボストンの世界SF大会に行った。そこでカルチャーショックを受けたのが、なにより「金と時間をかけた大人文化としてのSF」だ。

アメリカ中のSFファンが集うその祭典では、華やかなコスプレに身を包んだ人々が闊歩し、体育館より広い場所に、見渡す限りフリーマーケット風のお店が並んでいる。平机に飾られたアイテムは多種多様。

日本では入手不可能な様々な映画のポスター。様々なイラストのTシャツ、バッチ、ワッペン。どれもが、メジャー作品からマイナー作品までそろっている。

違法か合法かわからないビデオテープ。手作りの組立模型（ここでガレージキットという呼び方を初めて知った）。模造刀、アクセサリ、コスプレ衣装。

すべてが、見たこともない宝の山だった。

このときの衝撃がキッカケで、僕は後にSF専門店を開店させる。1982年1月、大阪の桃谷という焼肉の香りが流れる町で、世界初のSF専門店ゼネラルプロダクツは生まれた。

この店のコンセプトは、あらゆる商品がオリジナルということ。最近、あちこちで見かける雑貨店なんかとは根本的に志が違う。世界中の面白い雑貨をそろえてみました、という安易なものではない。店長自らが海外に行ってセレクトしようが、所詮、売っているものを集めたにすぎない。

世界中でどこにも売っていない商品を、自分たちが企画し、漫画家やアニメーターにイラストを発注し、デザインし、量産する。あるいは模型の原型を発注し、パッケージやアSEMBルをデザインしてもらおう。開店当初、ガレージキットは自分たちの手で型取りをして、量産していただく。

どうや！こんな店、どこにも見たことないやろ！

僕たちの鼻息が荒かったことは言うまでもない。

しかし、出資者である僕の両親を含め、周囲の大人たちの目は厳しい。

「こんな店、3か月もたへんわ」と、内装をした大工さんにまで言われた。

が、ふたを開けてみると、自分たちの楽観的な予想すらはるかに上回る大盛況。開店時間には、近所の人何事かと見に来るくらいの行列ができた。開店初日から売り切れが続出。3日目には、棚の半分がからっぽになった。

人気商品のTシャツやマグカップは追加量産に時間がかかる。それなのに、出資者である両

親は、多めの量産を許してくれない。あいかわらず、売れることが信じられないのだ。

ガレージキットは、毎日少しずつしか作れない。友達を片っ端から引きづり込んで作らせたが、棚に置けばすぐに売れてしまう。結局、空の棚とその後ろの白い壁が目立つ店になった。

「〇〇はありますか？」という問いに、「すみません。品切れです」と答える日々。それは、2ヶ月経っても、3ヶ月経ってもなかなか改善されなかった。

量産体制が整ってきた頃に、通信販売を始めた。「珍しい店」ということで、ズームイン朝から取材も来た。結果、白い壁はますます広がった。

店の商品が売れまくるのはよいことか？

誰もがイエスと答えるこの質問に、その時の僕たちは、お気楽にうなずけなかった。遠くから来た客が肩をおとして帰っていく後姿を見送りながら、何とかしなければ、とさすがに焦った。

新製品の開発には、やたら時間がかかる。メーカーと同じか、それ以上の手間をかけているのだから、あたりまえだ。開発費も時間もかかるし、売れなかったときのリスクも大きい。

そこで思いついたのが、心の原点・アメリカだ。

アメリカに買い出しに行こう！アメリカには、なんでもあるに違いない！

田舎者ほど東京に行けば何でもあると思っている。いたるところをスターやアイドルが闊歩し、新宿や渋谷、六本木が歩いて5分圏内だと思いこむ。

同様に、ゼネプロを始めたころの僕は、アメリカに行けば何でもあると思っていた。田舎者の勘違いだった。ボストンの世界SF大会で僕が衝撃を受けた巨大フリーマーケットだって、ちゃんと理由がある。

日本みたいに同人誌主体ではなく、グッズ中心になるのは「平均的なアメリカ人は絵がヘタだから」「印刷技術も低く、日本より割高だから」という単純な理由だった。日本人の手先が器用なものには定評があるが、普通のアメリカ人は驚くほど絵が下手だ。日本の子供はみんなお絵描きや落書きで腕を磨くが、アメリカ人は小さい頃から落書きをあまりしない。

あと、日本みたいに同人誌に対しての「お目こぼし」が少ない。すぐにFBIに通報されて没収される、という話も聞いたことがあるぐらいだ。

かわりに発達したのが、コスプレやグッズのコレクションだった。当時の僕はそういう日米の文化差に気づけなかった。アメリカには何でもある、という「感動」を日本で再現するために、すべてオリジナル商品のショップを作ろうと考えたのだ。

落ち着け、俺。

あのフリマで売ってたのは、全米から集めてきたグッズであって、オリジナルばかりではなかったはずだ。毎年SF大会に来る人たちにとっては、目新しいものは半分もなかっただろう。

だが、こんな勘違いこそが文化を促進するエネルギーになる。9月頭の値下がりでロスまで往復のエコノミーチケットは10万円まで下がっていた。さいわい、店の売り上げは順調だ。

「まあ、金ならあるし」と、僕は相棒・武田さんの分をあわせて二枚、航空券を手に入れた。

これでSFグッズを買いまくろう！もう「白い壁」とはおさらばだ。

渡米を決めるとすぐ、アメリカ事情に詳しいHさんに教えを乞うた。彼は特撮雑誌の有名ライターで、買いまくりツアーの話をする、「そんなの楽勝やで！」と太鼓判を押した。「ロスに行けば、見たこともないSFグッズ買い放題や！まずハリウッドではサンセット通りのラリー・エドモンド・ブックストアに行かなアカン！」

世界SF大会で見た無限のSFグッズが、ハリウッドの大通りにそって店を並べてる光景を思い浮かべた僕は、必死でメモをとった。

「あとは、バンナイズのトイザラスで、仕上げやな。おい、もう成功したも同然やんか！」

Hさんに背中をどやされ、僕は必死でバンナイズだのトイザラスだの、初めて聞く単語を覚えようとした。

店の通帳にある現金、たった30万をすべてトラベラーズチェックに換金し、ついに僕たちはアメリカへ飛んだ。

LA空港で慣れない英語でレンタカーを借り、Hさんから「便利で格安」と教えてもらったハリウッドどまんなかのホテルにようやく到着したときは、すでに夕暮れというにも暗すぎる頃だ。しかし、目の前の鉄格子と南京錠と監視窓がそびえ立つ、この要塞のような、あるいは監獄のような建物はナニ？これがひょっとしてホテル？  
嫌な予感のは的中した。

---

ハリウッドという場所は存在しない。ハリウッド大通りのマンズ・チャイニーズ・シアターあたりがそれに該当する地域だ。

しかしこの治安の悪さはなんだろう？通りはホームレスとゴミであふれ、お店の入り口では「シャツを着てない奴や靴をはいてない奴は客とみなさない！」「20ドル札以上は使えません（偽札防止のため）」という物騒な張り紙が僕たちを威嚇する。華やかなハリウッドのおっかない素顔に僕たちは圧倒された。

ホテルは、チャイニーズ・シアターから徒歩3分、本当にハリウッドのどまんなかにあった。鉄格子と南京錠と監視カメラで武装した灰色のコンクリートの塊。それがこの街では「安心とくつろぎの証明」なのだ。

呼び鈴を押す。気配がして鉄板張りの分厚いドアの細長いのぞき窓が開く。

「ヨヤクしてまちゅ！ミスターオカダとタケダでちゅ！ニホンから来ました！」とヘタな英語で叫ぶとようやく鍵を開ける音が数度繰り返されて、鉄格子と続いて分厚いドアが開いた。

入り口の裸電球が強烈な印象だ。もちろん素泊まり。食事もレストランも売店もない。エアコンもテレビも駐車場もない。出入りのたび、僕以上に英語が下手な中国人オーナーの疑り深いチェックを受ける。とりあえず、パスポートとトラベラーズチェックだけは、肌身離さず持つておこうと決心した。

アメリカのお店の閉店は早く、もうすぐ夕方になる。のんびりしてはいられない。あさってには帰りの飛行機に乗らなくてはいけない貧乏出張なのだ。

まずは、歩いていけるショップに目標設定。ハリウッド大通りのラリーエドモンド・ブックストアに向かう。Hさんから「SF映画のグッズとかポスター、ナンボでもあるで！」と聞いた店だ。

小ぶりな店は映画ポスターであふれかえっていた。スターウォーズや007といったメジャー映画のポスターから、マイナーな作品まで、年季の入った棚には折りたたんだポスターが無限に並ぶ。店主のラリーに頼むと折り目のないまっさらなポスターを出してくれるんだけど、これがもう！どうやって保存してたんだと首をかしげたくなるような、たったいま印刷されてきたようなインクの匂いがムンムンするような美品ポスターなのだ。

もちろん、SF映画もいっぱいあった。「妖怪巨大女」なる脱力系の邦題で知られる「アタック・オブ・50フィート・ウーマン」という三流SF映画のポスターを見つけて歓声をあげた僕たちは、店中の冷たい視線を浴び…、いや違う。店員やお客たちも「なんだお前、わかってるじゃん！」と笑顔を返してくれる。

僕たちは夢中でSF映画のポスターを掘り出しまくった。「地球爆破作戦」「サイレントランニング」「ミクロの決死圏」そしてもちろん「2001年宇宙の旅」。有名から日本未公開作品まで、乏しい資金と相談しながら買いあさり、気がつくとすでに外はまっくら。閉店時間になっていた。

腕が抜けるほど大量のSF映画や原作ペーパーバック、シナリオやスチル写真を買い込んだ。興奮で頬を真っ赤にした僕たちはデリに寄ってアメリカではじめての食事をカウンター席で腹いっぱい詰めた。オムレツやハンバーガー、分厚いパンケーキにはもちろんこれでもか、とメープルシロップ。おかわり無料のコーヒーで流し込みながら、もう我慢できず初日の戦果品を狭いカウンター席で広げる。

そこにはもう、夢のようなSF映画の数々……。

「なんや、アメリカ買い出し旅行、楽勝やんか！」

武田さんの言葉に僕は強くなづいた。でも、楽勝はこの初日だけの甘い夢だった……

---

時差ぼけと興奮でろくに眠れやしなかった。SFグッズ買い出し旅行の二日目、明日はもう出国だ。焦って起き出したはいいけど、アメリカの店の朝は遅い。遅いだけでなく時間にルーズだ。11時前になっても、ハリウッド大通りのシャッターは閉じていた。

とりあえずなにか食べよう。「毎日24時間、2ドル98¢の朝食を出します！」のポスターに武田さんと顔を見合わせて笑った。「朝ご飯ちゃうやん」

顔よりでかいバターミルクパンケーキ、バターたっぷりのワッフル。コーンビーフとジャガイモを炒めただけで、なぜあんなに美味しいのか不思議なホームポテト。とびきり新鮮なミルクと卵で作ったオムレツ。薄くてパリパリに焼き上げたトーストとベーコン……。僕はいまだに、世界で一番美味しい朝食はアメリカのダイナーで食べる3ドルの朝食だと信じてる。

元気を取り戻した僕たちは大通りの店を片っ端からまわった。しかしHさんに教えてもらったオモチャ屋は手品専門店で、映画の小道具を売ってるはずの店はタロットカードを売ってるだけだった。

「やばいな……」

僕たちは焦りだした。すでに午後2時。早い店は4時半に閉店する。これまでの戦果は昨日買ったポスターだけだ。明日の出国時間は11時、つまり買い出しのチャンスはどう考えてもあと数時間しかない。日本を出るときに持ち出した1200ドル、たった30万円の軍資金すら使い切らずにタイムアウトになるのだろうか。このまま、ろくに買う商品が無かったら。安売り航空券代も安ホテル代も、単なる無駄な出費になってしまう。

「トイザラス、行ってみるか？」武田さんがつぶやいた。正直、気が進まなかった。ハリウッド大通りなら正確な住所などわからなくても歩いて探し回れる。しかし「バンナイズをまっすぐ行ったところ」としかわからない。だいたい、バンナイズって何なんだよ！

万策尽きた僕たちは、收容所みたいなホテルのアジア系オーナーに尋ねた。

「バンナイズはロスの北部を走る道路ヨ。テキサコの地図があるからあげる。タダでいいヨ」え！この強欲オヤジがタダでものをくれる？

「あんた達、ここで買った物を日本で売る？そうダロ？」観光ビザで入国した僕たちは、気まずそうに目を合わせた。「こっちの国で安く買って、あっちで高く売ル。みんな同じ。そうや

って商売を大きくす。そしたら、またうちで泊まればイイ」

オヤジの僕よりも下手くそな英語は、見知らぬ異国の治安の悪い地区で、それでも安ホテルオーナーとして一国一城の主として成功した男の言葉だった。

ハーツで借りたフォードのステーションワゴンに乗り込む。アメ車特有のただっ広いキャビンを見渡して決心した。このキャビン一杯に玩具を買い込んで帰国する。そして売って売って売りまくって、儲けた金でまたこのホテルに来るんだ！

ステーションワゴンで夕暮れのバンナイズ通りをぶっ飛ばす。どこまでも続く街路樹と住宅と、そして荒野。あの地平線に陽が落ちるまでに、店に着けるのだろうか？

「なんでもアルで！」とHさんが請けあった店。摩訶不思議な響きをもつ「トイザラス」というおもちゃ屋。奇跡のおもちゃ屋を探して、僕たちはロサンゼルスを北上した。

---

101号線、通称ハリウッド・フリーウェイを北上して170号線の交差点を西へ。埃っぽいLAの夕焼けに向かいベンチュラ・フリーウェイをシャーマンオークスで降りれば、真北にむかってどこまでも延びる一本道がある。そこがバンナイズ通りだ。

日本から米国へおもちゃを買い付けに来た僕たちがてっきり地名だと思っていたバンナイズは、ひたすら広くてとにかく長い道の名前だった。

「バンナイズを行けば、絶対にわかるから！」というHさんの言葉を信じて、一時間近く走ってるけど、どこにもトイザラスは見つからない。タンクが空になるほど走ったので、とりあえずガソリンスタンドに入り、人の良さそうなおじさんに聞いてみた。

「といざらす！といざらす？え〜と、といしょつぷ。といしょつぷ！」

しばらく悩んでいたおじさんは地図の一点を自信を持って指さした。やった！ついにトイザラスを見つけた！

しかし五分後、僕たちは寂れた食料品店の前で立ちつくしていた。

『TOY'S SHOP』

トイさんの食料品店。どうやら卵やミルクが安いらしい……

武田さんが笑い出した。笑ってる場合じゃない！とキレかけた僕も、いっしょに笑ってしまう。二人でトイさんの店を見上げて、ヒステリックな笑いがとまらない。店の中には正体不明なビニール製おもちゃを売っている。

「岡田君、トイショップで宇宙フィギュアやで。買えば？」「ええんですね？ホンマに買いますよ！」

息も絶え絶えに笑いながら、バンカメリカのトラベラーズチェックで買い物をする、店主は

不思議そうに僕たちを見送った。

トイザラスは、トイさんの食料品店より五分の距離にあった。夜空に輝く巨大なネオンサインと、フリーウェイいっぱい広がる「ようこそトイザラスへ！あと1／2マイル」という看板。どんな馬鹿者でも、たとえば日本から来たSFファンでも見逃しようがない。「バンナイズをバ〜っと走ってたら、絶対に見つかるって」というHさんの言葉にウソはなかったのだ。

閉店時間を気にしながら、店に入る。そこは、僕たちが知っていた「おもちゃ屋」という言葉とはほど遠い、広大な敷地が広がっていた。

野球がらくらくできそうな広さに、天井も見上げると首が痛いほど高い。後に知ったけど、バンナイズのトイザラスは本場アメリカでも最大規模だったのだ。高さ8メートル以上あるスチール棚には整然と商品が積み上がり、はるか向こう側の壁面までまるで合わせ鏡のトリックみたいに並んでいた。

入口を右に曲がると、まずベビーカー売り場だった。テニスコートより広い面積、三階建てのビルぐらいある商品棚に見渡す限りのベビーカー。歩いても歩いてもベビーカー。

次の売り場は、どこまで行っても三輪車。歩いても歩いても三輪車。次は、幼児用の補助輪つき自転車。歩くのに疲れ果てた頃に、子ども用自転車の海が広がっていた。

さすがに焦ってくる。この店、地図はないのか？店員さんに聞きたくても、広すぎてどこにいるかもわからない。

とりあえず入口まで戻り、地図を見つけて巨大なカートを引き張り出した。

小さな運動場ほどのママゴト売り場を小走りに抜けると、やっとフィギュア売り場を見つけた。

見たこともないほど大量のスターウォーズのアクション・フィギュア。

ここは宝の山だ！

---

20年以上前の話である。

スターウォーズにはじまるSF映画ブームに日本が沸いていた時代、世界初のSF専門店を開いた僕たちは、店で売る商品の不足に悩んでいた。そこでSFの本場アメリカに飛んで、当時誰も知らなかった巨大おもちゃ店トイザラスをついに見つけた。

いま目の前に宝の山がある！

日本ではキディランドや博物館ぐらいでしかお目にかかれないスターウォーズのアクションフィギュア。1体2,000円以上はしたはずだ。それがここではたった98円。ダブルベッドぐらいある特大サイズのカートに、狂ったようにフィギュアを詰め込んだ。あっという間に満杯になり、1台目、そして3台目のカートも山積みになった。アクションフィギュアだけではない。

スタートレックのマグカップや、インディ・ジョーンズの寝袋など、とにかくSF系作品の雑貨をカートに放り込んだ。

さすがに目立つのか、店員がこちらをチラチラ見ているような気がする。なんだか不安になってきた。

「君たち、そんなにたくさん買ってどうするの？え？日本で売る？それはダメだよ」と言ってきそうな気がする。

だって、アメリカは権利とかうるさいし、勝手に輸出したら違法かも。ダメと言われそう。どうしよう。

閉店直前にレジに商品を積み上げ、POSで武田さんと小声で相談する。

「これは全部プレゼントやねん」と武田さんがささやいた。「アメリカ人、どうせ日本のこと知らんやろ。日本にはお盆やお彼岸やお月見の時に子供にオモチャをあげる習慣がある、と言い張ろう。日本人は第二次大戦に負けてからずっと貧乏で、どの家にも兄弟がぎょうさんいてる。僕らも若く見えるけど日本に帰ったら子供が6人に甥っ子姪っ子あわせて30人以上、とか言うたらエエねん」「は～、ムチャクチャやけど、なんか説得力ありますね～」「じゃあ岡田君、英語で言うてね」「ええっ?!」

たしかに、車の免許を持ってない僕は、アメリカでは通訳を一手に引き受けていたのだ。

「え～、じゃばにーず はず めにめに ちるどれん。あい はぶ あ ろっと おぶ ふあみりー。ねくすとういーく ぶっだ ばーすでい。ざっつおーる ぷれぜんと!!」

レジでひきつった笑いを浮かべながら汗みどろになる僕を黒人のおばさんは冷たく見返し、マイクに向かった。

「マイク ナンバー7 プリーズ」

店長マイクが7番レジ、つまり僕たちの前に呼ばれた。レジのおばさんはうさんくさげに僕を指さし、マイクに口早にまくし立てている。

もうダメだ。FBIだか連邦商務局だかに通報されて、僕たちは関税法違反とかで逮捕される。商品は没収されて、僕たちは国外追放になり、パスポートには再入国禁止のスタンプが押されて、そして店で売るものはなにもなくなるんだ！

店長のマイクが僕に話しかけた。よく聞き取れない。

「you need gift laps?」

「ぎふと ふあっと?」

「Gift laps.Do you need gift laps for your presents?」

ああ、なんと親切なことに彼らは「プレゼント用の包み紙はいらないか？」と聞いてくれたのだ。

目まいがするほど安堵した僕たちは申し出を丁寧に断って、5ドルや1ドルのトラベラーズチェックに何十枚もサインして店を出た。

フォードのステーションワゴンいっぱいにおもちゃを詰め込み、帰り道はニヤニヤ笑いが止まらなかった。

ついにアメリカで商品を仕入れたぞ！この車いっぱい！『ルパン三世カリオストロの城』の冒頭シーン、カジノを襲撃して車にあふれんばかりの札束を詰め込んだルパンと次元が笑いが止まらなかったように、僕たちはバカ笑いしながら深夜のベンチエラフリーウェイを突っ走った。

---

ステーションワゴン車いっぱいのアメリカ玩具買い付けに成功した僕たちはその夜、祝杯に酔いしれた。

…となるとカッコいいんだけど、現実はそんなに甘くない。深夜営業のジャック・イン・ザ・ボックスなるハンバーガーチェーンで、見たこともないほど巨大なチーズバーガーとチョコシェークで乾杯し、ホテルに戻った。

もう深夜だ。フロントはすでに明かりが消えていた。玄関のベルを押すと、パジャマ姿（可愛い帽子がへんに似合っていた）の不機嫌な主人がドアを開けてくれた。車から荷物を運び込み、部屋いっぱいになだれのように広がるフィギュアを見ながら、途方にくれた。

こんなにかさばる物を、手荷物として飛行機には持ち込めない。

「よっしゃ」と武田さんは決意した。「中身を出して、箱はばらそう」

「え？そんなことしたら、売り物になるか？」「大丈夫や。きれいにばらして、もっかい組めるようにする！」

ブリスターパックのホッチキス針を慎重にはずし、透明パーツ・台紙・フィギュアの三つにわけける。紙がやぶれても、透明パーツが折れてもいけない。日本人は、隅っこが折れたポスターは買わない民族なのだ。

内職は明け方まで続き、ようやくむき身フィギュアと紙の束、透明パーツの束が完成した。買い込んだ本や雑貨、丸めたポスター類といっしょに、考えられる限りの密度でスーツケースに詰め込んだ。

しかし、買い込んだフィギュアの半分以上はまだ床の上だ。

「とりあえず、持って帰るのはサンプルや。これで通信販売の広告写真が撮れる。残りは発送

するしかないな」

発送？どうやって？

発送するための段ボール箱やガムテープはどこで買えばいいのか？だいたい、どこに持っていけば海外小包が送れるのか？ネット情報で便利になった今から思うと不思議だろうけど、当時の僕たちにはなにもかもわからないことだらけだった。

というわけで徹夜明けの午前六時、船便で送るための段ボール箱を調達に、ハリウッド大通りをうろついた。

まず「ダンボール箱」という英語がわからない。身振り・手振りで伝えようとしても、わかってもらえない。さまよい歩いて二時間、おとついで行った手品専門店の前に大量のダンボール箱を発見、気前よく分けてもらえた。ろくな商品がないと、一昨日、日本語でさんざん悪口を言ったことをちょっと反省しながら、ホテルに戻って荷造りを済ませ、チェックアウトした。

イエローページで見つけた郵便局では「インボイスを書け」と言われた。はじめて聞く言葉だ。「すべての商品の名前と購入価格を、この紙に書け」と用紙を渡された。

僕たちは呆然とした。

商品はもう箱の中だ。開封して中身の確認をしている暇などない。飛行機の時間はせまっている。格安チケットだからキャンセルも変更もきかない。

一所懸命、思い出しながら書いていたが、やっぱり無理がある。とにかく思いつくままフィギュアの名前を書き、値段は1ドルにし、送ってしまった。

文句を言われるとしたら、日本の関税だろう。その時は、飛行機の時間を気にせず、ゆっくりいくらかでも釈明でも書類の書き直しでもしてやるよ。

もちろん、日本語で！

---

たった3日間のアメリカ滞在も無事に終わった。大阪の店に帰ってきた僕たちを迎えてくれたのは、期待いっぱい待ち受けるスタッフたちだ。

スーツケースをあけると次々と出てくる、見たこともないおもちゃ。取り出すたびに大歓声があがる。

「洋書版のスターログで紹介されているのを見たことがありますよ！」「スピナー？こんなのミニカーになってたんだあ！」「何、このキャラ？スターウォーズにこんなの出てたっけ？」「宇宙酒場で端っこにいたヤツじゃない？」「ああ、そんな気がする！」「僕これ絶対に買います。先に売って下さい！」「僕はこっちとこっちを！」

大騒ぎの中、狭い店内は、あっと言う間におもちゃであふれてしまった。

トイザラスの大量のおもちゃの山から、ティースプーン1杯分のおもちゃをすくってきただけ

。それが日本に戻ると、実はそのティースプーンがショベルカーのバケットくらい大きかったと気づかされた。そんな気分だ。

3週間後に、船便が届いた。

どうやって展示しようか悩むほどの量だ。どれもこれも大人気になりそうで、売り切れ間違いない。錬金術とは、まさにこのことである。

いや、浮かれてはいられない。気持ちを落ち着けて、雑誌広告の準備だ。

広告を出すには、売値を決めなければならない。いったい、いくらで売ったらいいのだろうか？

仕入れ値は、全部で約30万円。

それに、安売り航空券代と宿泊費、船便代。おおざっぱに計算すると、仕入30万円、出張費30万円だ。つまり、買った値段の少なくとも倍で売らないと損をする。4ドルで買ったら8ドル。20ドルで買ったら40ドル。

いや、ちょっと待て。

アメリカ出張費だけじゃない。今回の広告は1/2ページで30万円。普段は1/4ページで17万なので差額の13万円は今回の経費として計上すべきだ。広告の面積が増えるとデザイン会社に支払うギャラも増える。販売当日にはバイトも雇わなくちゃいけない。おおざっぱに計算しても、合計で30万は経費として加算するしかない。

いやいや、ちょっと待て。

一つ残らず売れたらいいだろう。でも一つでも売れ残ったら赤字になる。

確かに売れると思って買ってきたおもちゃばかりだ。それでも、売れ残るものもあるだろう。

いったいいくらで売ればいいのだろう？ホワイトボードに計算式を書いてみた。

売り値合計の2/3 = 仕入れ値30万円 + 出張費30万円 + 経費30万円

売り値合計は135万円になった。つまり、元値の4倍で売らねばいけない。4ドルで買ったおもちゃは16ドルになる。

それまで「絶対に売れます！」とか「僕も買う！」とか浮かれていたスタッフの熱も「ちょっと高いですね」と一気に冷めた。洋書屋で原価5ドルの本が1,500円で売られてるのを見て「ボロボロ儲けしやがって」と毒づいていた僕たち。なんて無知な子供だったんだろう。

このおもちゃ、いったいいくらで売るのが「正しい」のか？「儲ける」っていったい何なんだろうか？

結局、一律4倍は無理とあきらめた。一律ではなく、自分の欲しいものは、思い切って高値をつける。

たとえばブレードランナーのミニカー・セットは原価の10倍にした。売れ残ったら自分で買い取ればいい。自分でも欲しいと思える価格、それしか基準が見つけれなかったのだ。原価の倍から五倍まで、価格帯はバラバラになった。こんな値段でちっとも売れなかったらどうしよう？

不安の中、発売日はやってきた。

フタをあけたら不安は一瞬で吹っ飛んでしまった。とにかく、売れる。10倍の値段をつけたブレードランナーのミニカーも開店5分で売り切れた。写真でしか見たことがないオモチャを前にして客は大興奮。値札なんか誰も気にしていない。5,000円持っている人は5,000円、20,000円持っている人は20,000円。財布の中すべてをはたいて買っていく。

そうか、みんな本当に欲しかったんだ。買ってきて、売らせてもらってよかったなあ。

ようやく自分たちのやったこと、商品セレクトや価格設定、アメリカまで仕入れに行くという判断自体も「これでいいんだ」と思えた瞬間だった。

アメリカ買い付け旅行は、僕たちに実に様々な体験をさせてくれた。

オモチャ屋が見つからず、アテもなく車を走らせた。

ものすごい量のオモチャにめまいがして、こんなに買い付けして売れ残ったら、と不安になった。

早朝のハリウッドを荷造り段ボール箱を探して、ホームレスと間違われた。

スタッフと一緒に大喜びして、値段が高すぎないかと不安になった。

いろんな思いを飲み込んだ一週間が過ぎて、売り上げ合計が出た。

しめて120万円。仕入れ値や経費をさっ引いて、30万円ほどの利益が残ったことになる。

「岡田君、30万円という事は…」 「もう1回アメリカに行けますね！」

…この2回目の仕入れで記録的な赤字を出したのは、また別の話である。

## スマートノート塾～第1回～

---

岡田斗司夫が提唱するメソッドの一つとして、スマートノートというものがあるのをご存知ですか？

ノート自体の工夫をしてのスケジュール管理や、今日自分に起こった出来事を書き続けていく日記のような使い方、学習している内容を書き取りしていく“普通”のノートの術と違い、続ければ続けるほど頭が良くなる、ノート術なんですよ。

用意するものもお手軽で簡単なのもこのノート術の特徴です。

見渡してみて、ボールペンが手元にありませんか？買ったはいいいけど使っていない学校用のキャンパスノートはありますか？落書き帳はありますか？

このノート術には特別なものは必要ありません。

紙とペンがあればいつでもはじめられます。ただできる限り罫線が引いてあるものが最初は望ましいです。

このコーナーでは、販売中の『あなたを天才にする スマートノート』をテキストとして、分かりやすく順を追って読者の皆さんと学習をしていきたいと思えます。

あなたのノートを“普通”から一段上の“特別”なノートにしてみませんか？

一足先に全文読みたい！という方がいましたら、クラウドシティに入会するか、本を買って頂ければ読むことができますよ。

クラウドシティ(<http://cloudcity-ex.com/>)

あなたを天才にする スマートノートー幻冬舎

(<http://www.amazon.co.jp/dp/4163735704/rocketinc-22/>)

あなたを天才にする スマートノート [電子書籍epub版] (<http://p.booklog.jp/book/50457>)

あなたを天才にする スマートノート [電子書籍Kindle版

](<http://www.amazon.co.jp/dp/B009SXC7C/rocketinc-22/>)

スマートノートは、『天才を作るため』のノート術です。

巷に氾濫（はんらん）しているノート術テキストやマニュアルは、『秀才を目指すため』、つまり単に有能な人材を目指す人のノート術です。

有能な人材、ということは「誰かに雇われて、仕事を他人に決められて働く」という意味です。そんな仕事に「天才」は必要ありません。「秀才」で充分。

もしあなたが目指すのが「秀才」なら、この本は向いていないかもしれません。

現在の仕事に不安や不満が無く、将来も安定していて、プライベートにも満足しているのなら、本書は必要ないでしょう。

「サラリーマンだし、起業も独立も望んでいない。だから秀才で充分」

なるほど、そうかもしれませんね。

でも、本当ですか？

もし本当なら、なぜこの本を見ているのでしょうか？

いまの日本に「不安や不満がなく、将来も安定」している職種なんて、本当にあるのでしょうか？

仕事とプライベートの両立を上手くできている人なんて、本当にいるのでしょうか？

「自分にはなにか足りない。なにが足りないかわからないけど、足りていないことだけははっきりわかる」

だからこそ、いまあなたはノート術やら思考法の本を読んでいるわけです。

いかがでしょうか。

もう少しだけ、読み進めたくありませんか？

なら大成功です（笑）。

ごめんなさい。

マジメに話を続けます。

## 無理せず楽しく続ける

---

さて、レコーディング・ダイエット成功の秘密は、なによりも「継続可能なダイエット法だ」ということです。

継続しやすいから、毎日の努力も小さく、その積み重ねの効果は大きい。

ダイエットと同じくノート術も、もちろん思考術だって、続けることが大切です。

そのためには、「無理せず」「楽しく」が基本になります。

このスマートノートは、レコーディング・ダイエットと同様、実行しやすく続けやすいように、いくつかのフェーズに分けて、無理なくすすめられるように工夫してあります。

楽しくノートをつけたり、それをもとに表現したりしていると、いつの間にか、あなたは「天才」になっている。

「天才」になるほどじゃなくても最低限「秀才」程度には、なっちゃおう。

そのためのノート術です。

## なぜノート術が続かないのか

---

書店のビジネス書棚に大量にあるノート術や思考法系の本。それらは大抵、単純でわかりやすい目的が設定されています。

「効率よく時間を使う」

「人生の目的を具体化する」

「プレゼンを成功させる」

自分の人生をランクアップしたいと考えているまじめな人なら、こういうノート術にチャレンジした経験はきっとあるはず。

何ヶ月かがんばって見た人も多いと思います。

でも結局、辞めてしまった。

やらなくちゃ、と思いつつ、なかなか続かない。

確かに効果もあるけど、手間がかかりすぎる。なにもここまで大仰（おおぎょう）なものでもなく、というものも多い。

私自身、以前にシステム手帳にハマったことがあります。

コレだ！ と思いましたよ。いままでの自分のムダな情報管理や仕事の仕方がバカらしく思えて、システム手帳さえちゃんと使いこなせれば、なにもかも上手くいく、そう思って熱心に使っていた時がありました。

でも、数週間で挫折しました。

だって、手間が多すぎます。

スケジュール帳に記入して、毎週初めに週間予定に転記して、会議のメモは会議ごとにフォルダに分けて、また議事録として転記する。

1日中、シャープペンシルと消しゴムで小さい手帳相手に格闘するのには、ほとんど疲れ果ててしまったのです。

では現在の、パソコンやスマートフォンで使えるノートやシステム手帳のソフトはどうでしょうか？

さすがに紙のシステム手帳時代のような転記のムダはなくなりました。しかし面倒なことには、かわりがない。

なにより、IT系のツールというのは基本的に欧米エクゼクティブ向けの「とんでもなく忙しく案件の多いビジネスマン向け」のツールです。「人の10倍働く人のための情報管理ツール」なんですよ。

私たちが望んでいる「雑事が楽になればいい」程度の動機で使いこなそうとするのは、大げさでムダが多すぎる。

家でケーキが作りたいだけなのに、お菓子用のオートメーション工場を作っちゃうぐらいのムダさです。

いや別に工場やコンビナートまでは、いらないから。

「どんなに忙しくても対応できる」ということだろうけど、そこまで忙しくないよ。もっと自分にぴったり合ったノート術があるんじゃないか。

そう思って、次々に新しい本を手にとってみました。

これって、なんだかダイエットとよく似ていると思いませんか？

ダイエットも、次から次へと新手法が出てくる。次々と新情報に飛びつき、年中ダイエットを宣言して、でもちっとも痩せられない人、私たちの周りにもいますよね？

そういう人のことを「ダイエット・ジプシー」と呼びます。

同じく「思考法ジプシー」「セミナー・ジプシー」「ノート術ジプシー」になっている人のなんと多いことか！

ダイエット・ジプシーが発生する理由は簡単。ダイエットできないからです。だから次から次へと、新手法に飛びついてしまう。

思考法やノート術も同じです。成果が出ない。だから新手法に飛びついてしまう。

「なぜ成果が出ないのか？」を根本的に問い直さないと、ジプシーを永遠に続けることになりま

すよ。

私は2007年に『いつまでもデブと思うなよ』（新潮新書）というダイエット本で、53万部という記録を出しました。

この数字は、ダイエット本では日本出版界最大のヒットであり、その他私の書いたレコーディング・ダイエット系書籍は合計で100万部を越えています。

いまだにダイエット特集を雑誌やテレビが組む時には、レコーディング・ダイエットは人気ベスト3に入り続けています。つまり「古くならない」ダイエット法なのです。

なぜでしょう？

それはレコーディング・ダイエットのメソッドは成功者が多い、つまり「成果が出やすい」からです。

ブログや Twitter などが普及したため、一般の意見は隠せない時代です。どんなに宣伝費をかけた目新しいダイエット法でも、効果がなければあっという間にすたれてしまいます。

レコーディング・ダイエットと同時期に大評判になった「ビリーズ・ブートキャンプ」「朝バナナダイエット」「コアリズム」をいまだにやっている人は、はたして何人いるのでしょうか？

そう考えると、レコーディング・ダイエットがいまだに人気の上位に居続ける、ということは「効果がある」という証拠のはずです。

## 「天才」の条件とは？

---

ちょっと待て！

その「天才」ってなんだよ？

ご指摘、ごもっともです。

「天才」とはなんですか？

「天才」とは、以下の3つの能力を兼ね備えた人です。

- 1) 発想力
- 2) 表現力
- 3) 論理力

このそれぞれに関して高い能力を持ち、それが強い主体性によって1つの人格の中にまとまっている状態。

これを「天才」と言います。

あまりに簡単な定義に驚かれたんじゃないですか？

でも大丈夫。古今東西の「天才」と呼ばれる人たちは全部、上記の「3つの能力」で説明できます。

人によっては「天才」という言葉に思い入れがあるため、もっと「ものすごいもの」でないと納得しないかもしれません。

「オレの考える天才はもっとすごいんだ！岡田の言う天才なんて、本当の天才じゃない！」

う～ん、本当かなあ？

私の考える「天才」は、日本で1000人ぐらいいるはずですよ。その中の有名人だけ、私たちは名前を知っている。

「秀才」というのは数百人～数千人に1人の人物。

「天才」とは数万～数十万人に1人の人物。

これぐらいのスケールで考えています。

「天才」よりすごい「怪物」「神様」クラスの人物は、目指すモノじゃないし、本人も幸福に生きられない。

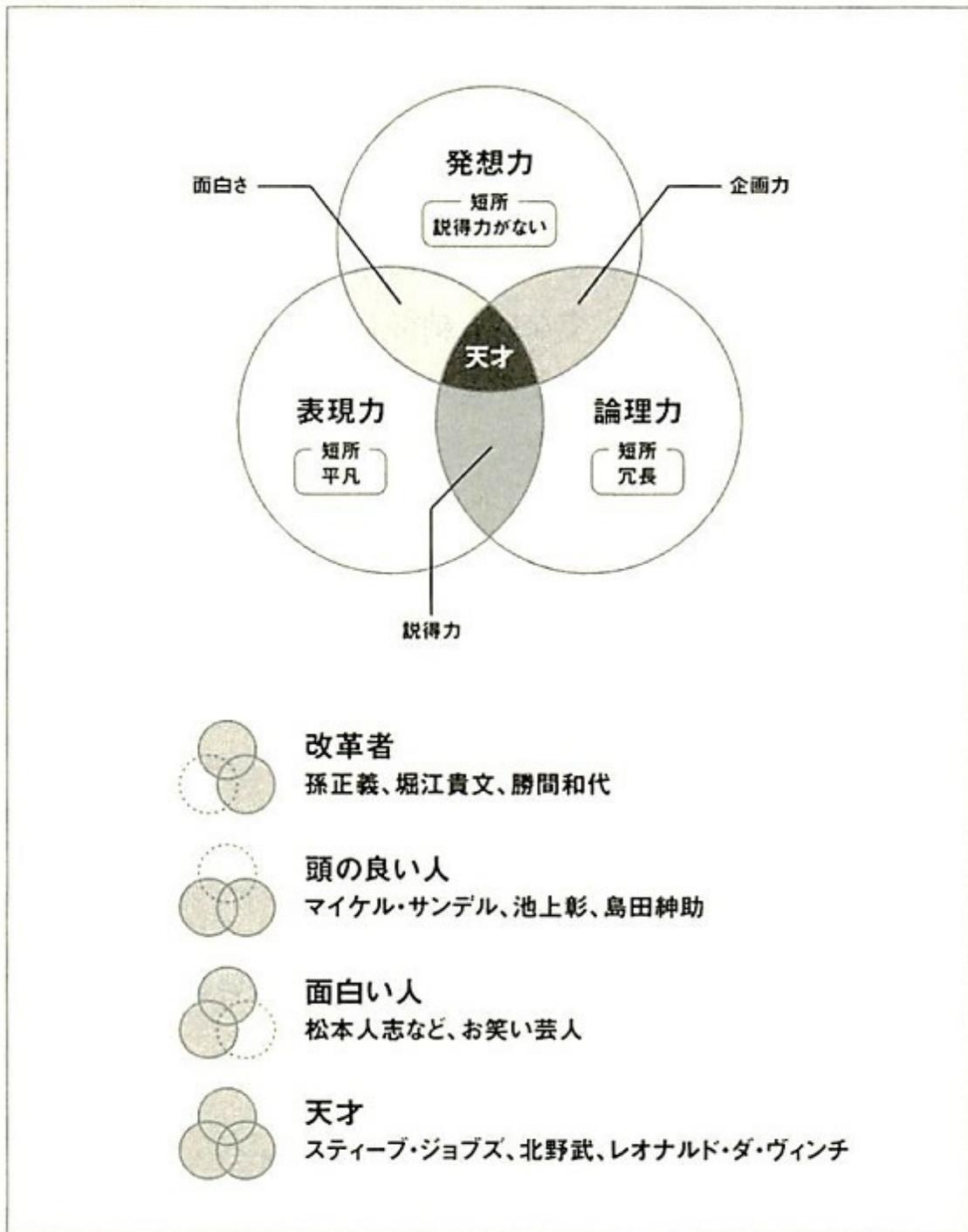
なので、本書ではターゲット外とさせていただきます。

前項の図を見てください。

3つの能力がそれぞれの円で示されています。

この輪すべてが重なりあうわずかな面積、ここが「天才」の領域です。

→ 天才の3要素



天才を定義したベン図。通常、人はこの3要素の1つのみを追いかけ求めてしまう。  
3つ備えようと意図すると、自分に足りない要素が見えるだろう

突然ですが、「あなたは何型ですか？」と聞かれたらなんと答えますか？

「A型?」, 「B型?」, 「RH-?」珍しいですね、私の場合『理想型』と答えます。  
やっぱり、血液型だと思っちゃいますよね、ちなみに私の血液型は「A型」です。

では、「血液型占い」って信じてますか？ほうほう信じていない、なるほど、そんなあなたは、私と同じ『理想型』かもしれません。血液型って色々タイプ分けされてますよね。「性格」だったり「相性」だったり「運勢」なんかにも使われています。

「A型は几帳面」, 「B型はおおらか」, 「AB型は変わり者」, 「O型は現実的」なんて“私の知っている限り”言われていますが、ちょっと調べてみて下さい。各血液型の項目にいっぱい特徴が書いてある、中には、似たような項目が複数の血液型に入っちゃったりしてる。そうなんです、血液型は、輸血をするために必要なだけなんです。確かに人類を4つのタイプに分類するには、便利な手法なんです、それを使って何かをしようとしても成立するはずありません。占いなんでもっての他です。と考えるのは、ライターの私が『理想型』だからかもしれません。んが.....。

これから当コーナーでは、本当に役に立つ分類法“4タイプ”について勉強していきたいと思います。

“4タイプ”には、『注目』『司令』『法則』『理想』の4つのタイプが存在します。

「自分のタイプは?」「隣のあの子は?」「嫌いな上司は?」と“4タイプ”に照らして他人を見ると、今まで理解できなかったことがスッと理解できちゃう、そんな便利なツールなんです。

自分が何タイプか興味が出てきましたか？

手っ取り早く自分のタイプが知りたい方は、このリンク先で判定できますので、試してみてください。

4タイプ判定テスト (<http://4typechecker.appspot.com/>)

それでは“4タイプ”についての解説本『人生の法則「欲求の4タイプ」で分かるあなたと他人』をテキストに勉強して行きましょう。

『早く全部読みたい』という人は、本を買って頂くかクラウドシティへ入会していただければ読むことができます。

クラウドシティ (<http://cloudcity-ex.com/>)

人生の法則－朝日新聞出版(<http://www.amazon.co.jp/dp/4023308838/rocketinc-22/>)

人生の法則 [電子書籍epub版] (<http://p.booklog.jp/book/51118>)

人生の法則 [電子書籍Kindle版](<http://www.amazon.co.jp/dp/B009SXCYAE/rocketinc-22/>)

「入学おめでとう。1年生諸君、今から君たちが受けるのは、この大学で一番おもしろい講義です。

今後4年間に受ける講義の中でも、間違いなく一番おもしろい。それが私、岡田斗司夫の講義だ！」

毎年4月、大阪芸術大学での1年生向け初講義を行うとき、私はこう言い切ります。

こんなことを宣言しちゃうと、当然めちゃくちゃハードルが上がります。高校を卒業したばかりの多感な若者たちの目が、期待と不信で私に釘付けになりますよ。

だからその後の90分間、私は命がけでおもしろい講義をせざるをえません。

なんでこんなバカなことを毎年毎年？

それは私が「注目型」だからです。

「注目型」とは何か？

それが本論です。もう少し待ってください。

で、そこまでハードルを上げた講義ですが……。

何をするかということ、自己紹介です。

講義初回は90分まるまるかけて、なんと自己紹介をするだけ。

ですが、大学の初講義が教授の自己紹介だけで1時間半なんて、もちろん常識ではありえません。

でも、その講義を聞き終わったら、なんと、ちゃんと「クリエイティブとは何か？」が分かる授業になってるんです。

だから学生たちは「確かに、今までで一番おもしろい講義だった！」と言ってくれています。

いや、我ながらレベルの高い技ですよ。えへん。

え？ 学生がそういう評価をしているという証拠ですか？

実は大阪芸術大学では、毎年の学期末に、講義に関するアンケートをとっています。

教員は見られないシステムで、その結果だけが通知されます。

私の講義はダントツの1位。7年前に講義をはじめてから、ぶっちぎりずっと連続1位をキープしています。

講義は、年間で15~16回あり、毎回ひとつのテーマについて語ります。

自分の才能の見つけ方

自分ひとりでお金を儲ける方法

なりたいものになる方法

などなど、どのテーマの講義も評判がよく、学生は「こんなおもしろい授業、受けたことがない」「よその学生も、うらやましがっている」と言ってくれます。

ここから私は、本格的な解説をします。

それぞれのタイプの特徴、どのタイプがどのタイプに惚れやすいか、フラれやすいか。

ケンカした友達の仲直り法や、部活で言うことを聞かない後輩をどう扱うか。会社に勤めるようになったら、性格の合わない上司とどう付き合うか。

話はどんどん広がります。

最終的には、小説やマンガ、アニメなどの創作にどう生かすか、という話に発展していきます。

その中で、私はみんなと「アンパンマンの歌」を歌います。

正しくは「アンパンマンのマーチ」（やなせたかし作詞）、こんな歌です。

なにが君の しあわせ  
なにをして よろこぶ  
わからないまま おわる  
そんなのは いやだ！

とても深い歌詞だと思いませんか？

私たちはそれぞれが違う。だから「何が幸せ」「何に喜ぶ」のか全部違う。

でも、教室に分かれた4タイプは、なぜかそれが共通しています。

なぜなのでしょう？

90分はあっという間に終わり、講義後の私は学生たちに囲まれます。判定テストに対する不満や、法則型男子の攻略法。なぜ理想型は「生き辛い」のか？問題など、いくら話しても彼らの興奮は冷めません。

さて、話はここからです。

1年間通して最も盛り上がるこの講義、この4タイプ分類法をみなさんに理解していただくためには、大学の講義同様、読者のみなさんを一堂に集めて、判定テストを行って席替え、というのが理想のやり方です。

この本が超々々ベストセラーになったら、東京ドームで読者感謝祭、そんなイベントを開きましょう。オーロラビジョンに問題を出して、判定結果でグラウンドやアルプス席を4つに分けて移動する。きっと壮観でおもしろいでしょう。

## 学生のタイプごとに話し方を変える

---

さて、結果が出ました。

手をあげさせてみると、毎回、250人がほぼ4分の1ずつのグループに分かれます。さっそく、席替え。教室を4つに縦割りして、タイプごとに座させます。

最初に話し掛けるのは、真ん中に配置した注目型グループ。

というのも、「あなたたちは、こういうタイプだよ」と話すと、「そう、そう、そう！」と実にうれしそうに聞いてくれるから。

一番ノリがいい。褒めても喜ぶが、ダメ出しされてもうれしそう。最も扱いやすい観客です。

続いて話し掛けるのは、隣に配置した司令型グループ。

「なんで向こうのタイプの解説ばかりやってんの？ 私たちはどうなの？」と顔に書いてある。「私たちにも、よいところはあるんでしょ？ 早く言ってよ」

最初に解説されなかった不満で、「待ってました！」の雰囲気があふれている。

だから「待ってたでしょ？」と声を掛けると、爆笑が返ってくる。司令型は、他人の悪口はもちろん、自分の悪口すら大好きなんですよ。

次に話し掛けるのは、隅に配置した法則型。

「君たちは今、教室中を観察していました。注目型は、ノリがよくてうるさいな、とか。自分たちのまわりは、どうもノリが悪いな、とか。盛り上がってきてるんだけど、この盛り上がりにはどうもついていけないな、と感じてるでしょ？」

このテストが、当たっているかどうかはまだ判断できない。使えそうなら、あとで試しに使ってみよう、と思っているよね」

法則型グループが、一斉に強くうなづく。

実は彼らは、この雰囲気に流されないようにと、口をつぐんでふんばっていただけです。

「なんかこの先生、口がうまいからだまされないようにしなきゃ！」という警戒を解いてあげたら、あとは素直に話を聞いてくれます。

最後は、僕を睨みつけている理想型。判定テストに不信感を持っているグループです。

「君たちは、僕の話を受け入れていないでしょ？ 法則型は、合っているか、間違っているかを見極めようとしている。でも君たちは、もっと根源的に『人間を4つのタイプに分類すること自体が、間違っている』と考えているよね。

人間を4つのタイプに分けるなんてできるはずない。だって、人間ひとりひとは違うんだから。少なくとも、自分は人と同じではない。君たちは、全員、そう思っている」

理想型の学生たちは口をあぐり開けます。まさに自分の考えていることだから。

「つまり、君たちは全員、『人間はひとりひとり違う。タイプ分けなんかできるはずがない』

とまっているという意味で、見事にひとつのグループなんだ。

ほら、こここのエリアの人だけが、そう思っている。つまり、君たちはそういうタイプなんだよ」

この解説で、頑固な理想型の心の殻が、パカッと割れます。話を聞いてくれる状態になるんです。

ここから私は、本格的な解説をします。

それぞれのタイプの特徴、どのタイプがどのタイプに惚れやすいか、フラれやすいか。

ケンカした友達の仲直り法や、部活で言うことを聞かない後輩をどう扱うか。会社に勤めるようになったら、性格の合わない上司とどう付き合うか。

話はどんどん広がります。

最終的には、小説やマンガ、アニメなどの創作にどう生かすか、という話に発展していきます。

その中で、私はみんなと「アンパンマンの歌」を歌います。

正しくは「アンパンマンのマーチ」（やなせたかし作詞）、こんな歌です。

なにが君の しあわせ  
なにをして よろこぶ  
わからないまま おわる  
そんなのは いやだ！

とても深い歌詞だと思いませんか？

私たちはそれぞれが違う。だから「何が幸せ」「何に喜ぶ」のか全部違う。

でも、教室に分かれた4タイプは、なぜかそれが共通しています。

なぜなのでしょう？

90分はあっという間に終わり、講義後の私は学生たちに囲まれます。判定テストに対する不満や、法則型男子の攻略法。なぜ理想型は「生き辛い」のか？問題など、いくら話しても彼らの興奮は冷めません。

さて、話はここからです。

1年間通して最も盛り上がるこの講義、この4タイプ分類法をみなさんに理解していただくためには、大学の講義同様、読者のみなさんを一堂に集めて、判定テストを行って席替え、というのが理想のやり方です。

この本が超々々ベストセラーになったら、東京ドームで読者感謝祭、そんなイベントを開きましょう。オーロラビジョンに問題を出して、判定結果でグラウンドやアルプス席を4つに分けて移動する。きっと壮観でおもしろいでしょう。

突然ですが、「あなたは何型ですか？」と聞かれたらなんと答えますか？

「A型?」, 「B型?」, 「RH-?」珍しいですね、私の場合『理想型』と答えます。  
やっぱり、血液型だと思っちゃいますよね、ちなみに私の血液型は「A型」です。

では、「血液型占い」って信じてますか？ほうほう信じていない、なるほど、そんなあなたは、私と同じ『理想型』かもしれません。血液型って色々タイプ分けされてますよね。「性格」だったり「相性」だったり「運勢」なんかにも使われています。

「A型は几帳面」, 「B型はおおらか」, 「AB型は変わり者」, 「O型は現実的」なんて“私の知っている限り”言われていますが、ちょっと調べてみて下さい。各血液型の項目にいっぱい特徴が書いてある、中には、似たような項目が複数の血液型に入っちゃったりしてる。そうなんです、血液型は、輸血をするために必要なだけなんです。確かに人類を4つのタイプに分類するには、便利な手法なんです、それを使って何かをしようとしても成立するはずありません。占いなんでもっての他です。と考えるのは、ライターの私が『理想型』だからかもしれません。が.....。

これから当コーナーでは、本当に役に立つ分類法“4タイプ”について勉強していきたいと思えます。

“4タイプ”には、『注目』『司令』『法則』『理想』の4つのタイプが存在します。

「自分のタイプは?」「隣のあの子は?」「嫌いな上司は?」と“4タイプ”に照らして他人を見ると、今まで理解できなかったことがスッと理解できちゃう、そんな便利なツールなんです。

自分が何タイプか興味が出てきましたか？

手っ取り早く自分のタイプが知りたい方は、このリンク先で判定できますので、試してみてください。

4タイプ判定テスト (<http://4typechecker.appspot.com/>)

それでは“4タイプ”についての解説本『人生の法則「欲求の4タイプ」で分かるあなたと他人』をテキストに勉強して行きましょう。

『早く全部読みたい』という人は、本を買って頂くかクラウドシティへ入会していただければ読むことができます。

クラウドシティ(<http://cloudcity-ex.com/>)

人生の法則－朝日新聞出版(<http://www.amazon.co.jp/dp/4023308838/rocketinc-22/>)

人生の法則 [電子書籍epub版] (<http://p.booklog.jp/book/51118>)

人生の法則 [電子書籍Kindle版](<http://www.amazon.co.jp/dp/B009SXCYAE/rocketinc-22/>)

2011年現在、世界中のほとんどの人が「経済」に関して分からなくなっています。

高名な経済学者や評論家の言うことは、それなりに信じられるような気もするけど、やたら寿命が短い。昨年の夏に買って苦労して読破した本が、この春にはもう時代遅れ。

こんな時代だから「経済」が分からなくて当たり前かもしれません。

経済なんて、最初っから分からないし関係ないよ！

こう言う人もいるでしょう。

では「仕事」はどうでしょうか？ 最近、なんだかワケが分かんなくなっていますか？

これまで問題なくやってこれた、ちゃんとお金を稼げた仕組みがどんどん不安定になる。今は大丈夫でも来年は、いや今年末に自分の会社がどうなっているか、分からない。

「経済」だけでなく、ビジネスや仕事という現実生活にかかわる部分すら、どんどん不透明感が進んでいます。

いや、もっと身近でリアルな言葉で語りましょう。

私たちはすでに「どうやって稼ぐのか？」「就職先にどこを選ぶのか？」「どうやればリストラされないのか？」

というあたりで、もう分からないのです。

「そもそも、働くってなんなのさ？」というレベルから分からなくなっている。就活で悩む若者に、私たちは「とりあえず頑張れ」「今を逃したら、この先はもっと不透明だぞ」と励ましたり脅したりする以外に、なにもできはしない。

この本は、そんな「分からない」に対する答えと対処法です。

ビジネスや経済が分からなくなった理由は複雑でしょう。

でも、原因は簡単です。

インターネット社会が出現したから。

それだけです。

ネットの普及によって、知価のフリー化が進行しました。

その結果、あらゆる情報サービスが無料に近づき、あらゆる製品価格やサービス価格が原価ギリギリまで下がりつつあります。

しかし、本書はそんな解説に紙数を使うつもりはありません。

「原因は簡単」なんですから、このあたりの解説書なら本屋さんに行ってビジネス書の棚を見ればいくらでも見つけることができます。

ビジネス雑誌でも、毎月どこかで必ず特集されているでしょう。

どうやれば企業は生き残れるのか。

どこにビジネスチャンスはあるのか。

どうすれば、変化しつつある大動乱の時代に、利益を出せるのか。

これらはすべて、沈没しつつあるタイタニック号で、マストの先を取り合うような行為です。貨幣経済社会というタイタニック号が沈没しつつある時に、最後まで沈まない場所、より安全そうな場所を、我先にと争って取り合っても意味がありません。

なので、これも本書では取り扱いません。読むだけ時間のムダ、タイタニック号のマストの先に向かっても意味がないからです。

また、世の中には「ネット型社会に特化した新しいビジネスモデルを発見した」と言う人もいます。

それで成功しているかのように見える企業もあります。

しかしそれは結局、タイタニック号の脱出ボートの大小を競っているにすぎません。

どれほど大きかろうと、設備が充実していようと、航海用エンジンが強力だろうと、ボートはボートです。

海図どころか、行き先すら分からない状態では、なんの意味も持ちません。

いずれ食料や水や「生きる意思」が尽きて、乗員はみんな遭難してしまうでしょう。

だから、本書ではそういう「ネット社会での新しいビジネスモデル」も取り上げません。

本書で扱うのは、沈没しつつある貨幣経済社会に代わって、海の向こう、霧のかなたに現れつつある新大陸”評価経済社会”についてです。

貨幣経済社会が没落する時、どんな現象が起きるのか？ 評価経済社会と入れ替わる時、どのように人や社会は振る舞うのか？

そして、その中で私たち一人一人はどのように生きていくのが、「新しい幸福」なのか。

本書で扱うテーマは、この評価経済社会という新世界への海図であり、大陸の地図そのものです。

本書の旧版は、1995年、今から16年前に『ぼくたちの洗脳社会』というタイトルで出版されました。東京大学のゼミで講義をしていた時、突然おりてきた着想をヒントに、一気に書き上げたものです。

朝日新聞社より発売された旧版は、10万部近い”隠れたベストセラー”になりました。

しかし16年前、日本でインターネットを使いこなしている人はほとんどいませんでした。そのため、「ネット社会における未来」という私の予測は、一部の人を除いて、さっぱり信じてもらえませんでした。

未来？ そんなに変わるわけではない。

社会の価値観そのものが変わるなんてあり得ない。

万が一、社会変化が来るとしても、数十年も先になるはずだ。

そう思われていたのです。

が、現在の時点で振り返ってみると、「社会はこうなる」という旧版の予測は、ほぼ現実になっています。記録用に旧版の内容そのものをネット上に保存し、ノーカットで誰でも読めるようにしていますので、興味のある方は私の公式サイトで読んでみてください。

<http://www.netcity.or.jp/OTAKU/okada/library/books/bokusen/mokuzi.html>

というわけで、16年前に書いた予測書が、具体的な言葉、当時は存在しなかった用語をあてはめるだけで、現実社会の解説書になってしまったのです。

本書は、この旧版をベースに、大幅に改訂し、用語や表記を整理統一したものです。評価経済社会に合わせた加筆部分も膨大な分量になりました。

旧版をすでにお読みの方にも、驚きと新しい認識を提供できる、生まれ変わった内容になっています。

未来は予測不可能ではありません。

16年前も、今も、その根本原理から目を逸らさない限り、「不透明な時代」ではないのです。貨幣経済社会の発展や存続のみに目を奪われていては、確かに現状は曇天で、果てのない悪天候に見えるかもしれません。

しかし、視点を高く持ってみませんか？

雲の上は、いつも青空が広がっています。

沈みつつある貨幣経済社会のその向こう、評価経済社会が私たちを待っているのです。

この本の最後で、私はこう書いています。

これからは未曾有のおもしろい時代になる。

この時代を生き抜いた私たちは、後世の人たちから羨ましがられるに違いありません。

それはちょうど、坂本龍馬の生きた時代、明治維新や戦国時代という「数百年に一度訪れる、とんでもなくおもしろい変化の時代」を後世の人たちから羨ましがられる、そんな時代に私たちは生きているのです。

大丈夫、この本のラストには、私たちの時代にはちゃんとハッピーエンドが待っています。

今はちょっと「分からない」から、不安なだけなんですよ。私たちは。

本書はそういう「分からない」を解決する海図であり、羅針盤となることを宣言します。

では冒険を始めましょう。

未来を考えるために、まず19世紀終りのアメリカを少し覗きます。

来るべき栄光と科学の時代、20世紀を目の前にして当時のアメリカ人たちは何を考えていたのでしょうか？

信じられますか？ 彼らは「蒸気機関で動くロボットの馬」が馱馬車を引っ張ると信じていたんですよ！

第1章「貨幣経済社会の終焉」のはじまりです。

## 100年前の未来

19世紀の終わり、アメリカ合衆国は最後のフロンティア・西部を開拓しつつありました。

下記の図は1892年に、そのアメリカで大ブームを巻き起こした新聞連載SF小説『フランクリード・ライブラリー』の表紙です。



当時の人々に夢と希望を与えた『フランクリード・ライブラリー』は世界最初の新聞連載SF小説といわれています。

「来るべき20世紀は科学と技術の栄光に満ちあふれている」

その巻頭で『フランクリード・ライブラリー』は高らかに宣言しました。しかし、その来るべき未来の予測は今の目で見ると、とても奇妙なものだったのです。

まず主人公の少年フランクが発明したのは未来の馬車（！）でした。

高性能の蒸気機関で駆動されるこの科学と技術の奇跡「スチームホース」は、本物の馬の代わりにフランクを乗せた鋼鉄製の馬車を引っ張る、疲れず眠らず食べない理想の馬なのです。

フランク少年は西部の正義を守るために次々と新発明をしました。スチームホースの改良型、スチームマン（頭にかぶったシルクハットが煙突の役割）、蒸気機関の潜水艦、荒野仕様の大型馬車。

現実の世界では、蒸気機関のロボットや馬は結局、実現しませんでした。でも、当時のアメリカ人が科学や技術に対して持っていた夢や無条件の尊敬が読み取れて、微笑ましいといえます。

時は流れて1900年初頭。当時流行の科学雑誌には、こんな特集がよく掲載されていました。

「夢の機械化住宅……1940年までにすべての住宅にはエンジンが取り付けられ、主婦の仕事は編み物だけになる」

特集の中を見ると、まず派手なイラスト。

住宅の隣に設置された、その家よりも巨大なエンジンのイラストです。もちろん巨大なエンジ

ンからは真っ黒な煙がモクモクと（！）噴き出し、一家の主と息子はその煙を頼もしそうに見つめています。

エンジンから伸びた巨大なシャフトが家庭の各部屋を貫き、高速で回転。シャフトに接続された複雑な歯車装置が、各部屋ごとの機械（掃除機とか皿洗い機、洗濯機、全自動編み物機）を動かす、という仕組みです。

で、すべての家事と編み物からも解放された主婦は、暖炉の隣の長椅子で小型エンジン付きタイプライターで母親に手紙を書いています。

「ねえ、お母様。最新型の機械化住宅って、とっても素敵よ」

この記事も確かに微笑ましいといえれば微笑ましいですね。私が大学の講義でこれらの資料を見せた時には、結構ウケました。もちろんそれは、大変好意的な笑いだったのです。

しかしその時から、消し去ることのできない疑問が生じました。

同じような疑念を、とある有名なSF作品にも抱きました。

『2001年宇宙の旅（以下2001年）』というSF作品をご存知でしょうか。50年近く前、1968年に発表されたSF小説および映画です。小説の方は世界三大SF作家の一人であり科学者でもあったアーサー・C・クラークが書き、映画の方は完全主義者の映画監督として有名なスタンリー・キューブリックが監督しました。

発表直後から、『2001年』は世界最高のSF作品の一つとされました。「人類の進化」という哲学的テーマを扱っていることのみならず、当時の最新技術を駆使した映像の完成度の高さ、SF考証の確かさなどがその理由です。

読者の皆さんの中にも実際に小説を読んだり、映画を観たりされた方がたくさんいることと思います。現在、『2001年』は小説も映画もSF史と映画史に残る古典の一つとされています。

未来予測もかなり正確です。『フランクリード・ライブラリー』とは比較にもならない……ということは、小説や映画に触れた方ならお分かりでしょう。

たとえば小説版『2001年』にはこんな描写があります。

大型ノート大の“ニュースパッド”を船の情報回路にさしこんで、地球からの最新レポートに目を通した。世界の主要な電子新聞が、フロイドの意のままにつぎつぎと現われる。ふだん読む新聞のコードはそらでおぼえているので、パッドの裏面にあるリストを調べる必要はない。ディスプレイを短期メモリに切り替えると、フロント・ページを保持したまま見出しをざっとながめ、興味ある記事をさがした。どの記事にも数字二つの参照コードがついており、キーを押すと、切手大の四角い記事がちょうどスクリーンいっぱいになり、楽々と読めるようになる。読みおえたら、ふたたび全紙面にもどし、つぎの記事を選べばいい。

ニュースパッドこそは、その背後にひそむすばらしいテクノロジーを含めて、完全なコミュニケーションを追究する人間にとって最後の回答ではないか。フロイドはときどきそんな思いにとらわれる。いま彼は宇宙はるかに乗りだし、毎時1万キロを越える速さで地球から離れつつある。それでいながら、ほんの数ミリ秒の時間で、どんな新聞の見出しも呼び出すことができるのだ（“ニューズペーパー”という用語じたい、このエレクトロニクス時代にあっては過去の遺物である）。テキストは1時間ごとに自動的に更新されている。英語版だけにしぼったとしても、無限に移り変わる情報の流れをニュース衛星から吸収しているだけで、一生が過ぎてしまうだろう。

（『決定版 2001年宇宙の旅』早川書房、アーサー・C・クラーク著、伊藤典夫訳）

どうでしょう。まるでスマートフォンやiPadでインターネット上のニュースサイトをチェックする我々の姿そのものではありませんか。

とはいえ、さすがに約50年前の作品です。若い頃はそう感じませんでした。現在の目で観直したり読み直したりすると、ところどころにヘンな描写が見受けられるのです。

たとえば月面の描写です。

宇宙ステーションでトランジットしたフロイド博士は月に向かいます。しかし、月面の様子は現在の我々が知っているそれとは大きく異なります。起伏に富み、ぎざぎざした岩山でいっぱいなのです。

映画の撮影がはじまった1965年当時、実際の月面がどんな具合なのか、全く分かっていませんでした。宇宙空間は真空で無風状態なので、風化が進まず、ぎざぎざした岩がそのまま残っているのではないかと予測されていたのです。

月の表面が「海」と呼ばれるほど起伏が少なく、のっぺりとしていることが判明したのは、科学技術が進歩し、無人探査機が月に着陸して画像を送ってくるようになった1966年以降のことでした。1965年の段階ではぎりぎり分からなかったのです。

また、他には作中に「パンナムのスペースシャトル」が登場します。

劇中、フロイド博士は宇宙ステーションに移動するため、パンアメリカン航空——パンナムが運航する民間スペースシャトルを利用します。無重力空間に漂うボールペンを、マグネットブーツを履いたスチュワーデスが爆睡しているフロイド博士の胸ポケットにそっと戻してあげたりと、完全に現在のジェット機がスペースシャトルに置き換わった描写がなされています。

パンナムはアメリカの代表的航空会社でした。世界で初めて自社運行のみで世界一周路線を開設したのがパンナムなら、世界で初めてボーイング747を就航させたのもパンナムです。創設初期には世界初の大西洋単独無着陸飛行で有名なリンドバーグが顧問を務めたりしました。

つまりクラークやキューブリックだけでなく、当時の世界中の知識人にとっても「パンナム倒産→消滅」などというシナリオは「宇宙旅行以上に荒唐無稽な空想」だったのです。

しかし、2001年を待たずしてパンナムは倒産しました。価格競争による収益の悪化や、オイルショックに伴う燃料高騰にもかかわらず、高コストな経営体質を改善できなかったことが倒産した大きな原因の一つでした。

なによりも、2001年までに人類は木星どころか火星にも到達できませんでした。あんなに大きな宇宙ステーションも、月面基地も建設できていません。『2001年』の宇宙ステーションに比べれば犬小屋みたいな国際宇宙ステーションの建設が始まったくらいです。

当事は米ソ間で冷戦まっ盛り、それを受けた宇宙開発競争まっ盛りでした。現在の安全基準に照らし合わせれば決して許されない危険なチャレンジや、国家予算の一割と呼ばれるほど巨額の予算をつぎ込んだアポロ計画を推し進めて、『2001年』公開翌年の1969年、やっと月に人間を送り込んだのでした。

とはいえ、宇宙開発をイケイケに推し進めていた60年代当時の人間からみれば、『2001年』の世界観はかなり説得力のあるものだったのです。2001年には恒久的で大規模な宇宙ステーション

と月面基地が建設されていて、民間航空会社が運営しているシャトル便がそれらと地球を結んでいて、火星を飛び越えて木星まで人間を送り込むテクノロジーが開発されているという未来予想は、ある程度現実性の高いものとして受けいられていたのです。

しかし、冷戦は『2001年』発表の約20年後に終結しました。現実の2001年にソ連という国は存在すらしていませんでしたし、冷戦後アメリカの宇宙開発関連予算は削減される一方でした。世界的SF作家のクラークも、天才映画監督のキューブリックも、1968年の時点ではこのことを予想できなかったのです（続編『3001年終局への旅』のあとがきにて、クラークはこのことについて言及しています）。

さて、『2001年』の未来予想を単に間違いとして済ませたり、取るに足らないものとするのは簡単です。しかし、このことに気づいてから、私のところの中には消し去ることのできない疑問が生じました。

私たち自身も、こんなヘンなことを言っていないだろうか。

ひょっとしたら、数十年後の人々から見たら、全く現実的でない予想を平気で言いふらしたり、そんな予想が書かれた本を読んで感心してはいないだろうか。

商品の絵はきのうの夜、小型のデジタルテレビカメラで撮影した。

本当は芸術家気取りのケイに頼めば、動画で角度を変えながら撮ってくれるのだが、出張先の台風接近で飛行機が遅れて間にあわなかった。だから静止画主体に編集し直した。まったく21世紀になっても天候だけはどうしようもない。

内部構造の説明は、結局、ありあわせの紹介ビデオをパソコンのデジタル・ビデオ編集ソフトで切り貼りして作った。本当は胃カメラを応用したグラスファイバー式のデジタルビデオカメラで機械の中を飛んでいる感じに編集したかったのだが、素人がやるとどうしても先がブレてしまう。それで諦めた。

(略)

最初の話題としてあたりさわりのないのはやはり天気の話だ。相手先の課長がデジタルテレビの気象チャンネルを選んで映像を映す。このチャンネルは衛星からの地球全体の実写が映るので、評判なのだ。

大画面で見ると自分が宇宙空間にいるようで、気持ちがやわらぐ。お互いの気持ちを解きほぐすには持ってこいの画像だ。商品紹介のプレゼンテーションが始まった。

(略)

さあ重役向けの商品紹介はケイをプロデューサーにして、バッチリしたものを作るぞ。あの課長をギャフンといわせてやる、と自らを奮い立たせるのだった。

(『マルチメディアとは何か』生産性出版、江崎伴雄・金子章弘共著)

ここに引用したのは、90年代前半に書店の本棚を大いのにぎわせていた、いわゆる「マルチメディア本」からの抜粋です。それなりに感心して読めますね。

しかし、さっきの『フランクリード・ライブラリー』の「夢の機械化住宅」や『2001年』のパナムについて引き合いに出すとどうでしょうか。

大学でマルチメディアの講義をしていた関係上、私は一時期、表紙に「マルチメディア」と書かれた本はすべて買っていました。聞くとところによると、94年度だけでも180冊以上出版されたということです。そのうちの半分近くは読んだでしょう。

なにせ、買っても買っても、次の日には新しいマルチメディア本が出ているという悪夢の日々でした。一番すごかったのは、午前中に新宿で袋いっぱい買い込んだ日のことです。ひと休みして、喫茶店で買い込んだ本に目を通したら、帰りに同じ書店のカウンターにまた、新しい本が並んでいるのを発見。思わずめまいがしましたが、努力と根性で買って読みました。

で、そういう本の中には時たま「マルチメディア環境が実現した2001年のオフィス」なんていう短編小説みたいなのが、最初か最後に入っています。

私は、そんなオマケは大好きです。なにせ私の本職はSF映像やゲームなので、お手並み拝見という気分で楽しく読みました。

ここで抜粋した「2001年のオフィス」は、特にそれらの本の中でも技術的なバックボーンもしっかりし、主人公の行動の動機づけ（モチベーション、と言います）も定義されている、良質のものです。

しかし、なにかヘンなのです。

ますます激しくなるプレゼン競争の時代。主人公は通信衛星からの情報で、お天気の話もしっかり押さえる、やり手の営業マン。彼は携帯コンピューターを片手に三次元ソフトで相手先の課長をうならせる。

技術的なデータの部分は、きちんと書かれています。

しかし、これが書かれた1995年当時から見てわずか6年先の世界の描写がなにかヘンなのです。つまり、その中で描写されている人物たちの価値観が、95年当時の私たちと（というより、その数年前のバブル時代の「ヤンエグ」たちと）全く同じです。

西暦2011年の我々は、この主人公とは違う世界・違う価値観に生きています。プレゼンの相談は同僚ではなく twitter や Facebook で見知らぬ他人とします。地球全体の実写—— Google アースの画像をみたくらいで、お互いの気持ちがやわらいだりはしません。

なによりの違いは「プレゼンをバッチリ決める」という気分ではないことです。やり手の営業マンであればあるほど過剰なノルマに押しつぶされるか、果てのない勉強会やセミナーのジプシーになって「自分探し」を続けているに違いありません。

つまり、ここで描写されている世界は、科学技術だけが先行した一方で、登場人物の価値観には全く変化のない、不思議な世界なのです。

## 岡田斗司夫のクラウドシティ～第1回～

---

年間1万円を支払って入会する有料SNS『クラウドシティ』をご存知ですか？

ここでは、『作家・岡田斗司夫』『教授・岡田斗司夫』『人間・岡田斗司夫』に出会うことができる場所なのです。

Facebook, Twitter, Google+.....発展めまぐるしい電腦社会では、次々とSNSが使われだしています。

なぜこの時代にクローズドなSNSとして成立させたのか？クラウドシティではどんなことが行われているのか？

このコーナーでは、クラウドシティがどのような場所なのか毎月紹介をしていきます。

第一回では、クラウドシティと他のSNSとの違いを紹介していきたいと思います。

## クラウドシティは他のSNSと違う

---

クラウドシティには他のSNSとの違い、独特の特徴が存在します。

---

### 1. クラウドシティには“入会”ではなく“入植”

クラウドシティは、年間1万円を支払うことで得られる対価は、「岡田斗司夫の全コンテンツが見放題」だけではありません。申し込みをする際に、『クラウドシティ市民の誓い』という、誓約書に承諾をした上でクラウドシティに“入植”してもらいます。これは、「クラウドシティが、すべてのサービスを提供するのではない」という事を意味するのです。

岡田斗司夫がいる街に引越しをしてくる、というイメージが適当でしょう。

自分の街を過ごしやすくするために、自分自身で出来ることはたくさんありますね。

『クラウドシティ市民の誓い』を守って、お客様意識ではなく、住民意識を持って参加すると突然面白くなる街なのです。「良き隣人，良き住民になることを意識する」なんて一般のSNSではあまり無いですよ。

---

### 2. 岡田斗司夫が“普通”にいる

『教授・岡田斗司夫』，『クリエイター・岡田斗司夫』，『ライター・岡田斗司夫』が主な活動をおこなっている街なのです。

なぜこのようなことができるのか？岡田斗司夫は、出演する番組や出版する書籍の打ち合わせを、クラウドシティ内で公開のもと行なっているのです。

いつでも真剣勝負、様々な仕事を覗くことができます。

また、大阪芸術大学教授としての顔も垣間見えることができます。

サロン『クラウドシティゼミ』や、クラウドシティ内限定放送局『岡田斗司夫ゼミ in クラウドシティ』で特別講義を行ったり、市民の日記にアドバイスなどのコメントをつけることがあります。

クラウドシティ内の活動を通して、様々なメソッド・カリキュラムを学ぶこともできるでしょう。

しかしながら、クラウドシティの一番の魅力は、『人間・岡田斗司夫』に触れることが出来ることです。

しばし、相談の日記などが投稿されることがあります。

また、市民の方の日記から素晴らしいアイデアのヒントなどの発見があった時には、“普通”にコメントを書いた後に、更にそのアイデアを発展させたり、外部に向かって岡田斗司夫自身が紹介したりします。

これは、岡田斗司夫に限ったことではなく、市民の方それぞれが、少し見方や切り口を変えるだけで、自分自身の閃きに繋がったりもする、良質な日記やコメントの書き込みが多いのも特徴でしょう。

クラウドシティ市民は、町の住人であるとともに互いのシンクタンクとなれる可能性が秘められているのです。

---

### 3. 運営方針が“特殊”

ここが他のSNSと比較しての大きな違いになります。

クラウドシティは街ですので、『市民議会』というものが存在します。

ここに参加することで市民自身の手で、クラウドシティの有り様を自由に決めることができます。

いわゆる“運営”というものが存在しない、街のことは市民が決める仕組みになっています。

このような形態にすることによって、市民独自の活動も展開されています。

週に一度発行されている『クラウドシティジャーナル』は、市議会によって発行されていますし、日替わりで希望した市民が担当をして、クラウドシティ内で毎日公開される日記の中から「ワタシのおすすめの日記」を一つ選んで毎日発表をする『GMC』というものを行なっています。

また実際に市民・市議会主催のイベントなども活発に行われています。

---

### 4. “史上空前”の実験都市

クラウドシティでは、独自のSNSでなければできない様々な実験が行われています。

- ①岡田斗司夫コンテンツの『フリー化』
- ②コンテンツ制作過程の『ミエル化』
- ③学びの場を提供する、『岡田斗司夫ゼミ』，『岡田スクール』，『岡田斗司夫ゼミ in クラウドシティ』
- ④『クラウドシティ市民議会』と『クラブハウス』による市民自治
- ⑤閉鎖系SNSであえて外部公開可能にする『パブリック宣言』
- ⑥パブリック宣言者の日記を公開する公式ブログ『クラウドシティなう』

これらの実験を、最前列で体感できるのもクラウドシティ市民に与えられる特権といえます。

次号では、今回の記事で使用した。用語について解説を行いながらクラウドシティの歩き方を紹介します。

## 選り抜き！クラウドシティ～第一回～

---

現在進行形で日記やサロンなどで、面白い話題進行中のクラウドシティ。

当コーナーでは、TwitterやFacebookなどで話題になった記事の舞台裏をちょっとだけ紹介しちゃいます。

今回紹介する日記

- 1 「クリエイターとして始めてお仕事をいただきました！」
- 2 「岡田先生、飯奢らせてください！」  
「岡田斗司夫に簡単に会う方法」  
「みんなそんなに岡田さんに会いたいの？」
- 3 「岡田斗司夫の投票戦略」

2012年12月に話題になったものもありますね、クラウドシティ市内ではどのようなやり取りがあったのか？お楽しみ下さい。

# 1 「クリエイターとして始めてお仕事をいただきました！」

---

P・大野萌菜美・法則さんの日記 / 2012年12月11日

<http://go.otaking-ex.com/yp0PkG6Z> (クラウドシティ)

クリエイターとして始めてお仕事をいただきました！

先日、ダンボール会社の社長さんにあってきました。

段ボール素材のことだけでなく、法人にするアドバイスや、3Dプリンターのお話を伺ってきました。

話の中で多く登場した本がこちら。"FREE〈無料〉からお金を生み出す新戦略"の著者クリス・アンダーソンの新書？"MAKERS-21世紀の作業革命が始まる"

[http://www.amazon.co.jp/gp/aw/d/4140815760/ref=mp\\_s\\_a\\_1?pi=SL64&qid=1355183505&sr=8-1](http://www.amazon.co.jp/gp/aw/d/4140815760/ref=mp_s_a_1?pi=SL64&qid=1355183505&sr=8-1)

面白そうだったので軽く紹介してみました～

いろんなお話を伺いつつ、お仕事もいただけてきました。

懇親会(だったような...)のダイレクトメッセージをダンボールで作るというお仕事です。

クリエイターとして始めてのお仕事です。

どのようなモノになるかわかりませんが、どんどん作って行こうと思っています。

結構、ザックリ単純化したものになりそうです。じゃないと切り抜けなかったのです。いろいろ検討中です。

- ・メリーゴーランド(まとまりがつきそう)
- ・宇宙(ロケット、月をいれたい)
- ・街(風車をいれたい)
- ・スパイ的な絵(スパイものが好きなようなので)
- ・車(車とかあったらいいな)

などを考えています。

印象としてどんな感じてしょうか??

意見やアドバイスをお願いいたします！

---

1: P・岡田斗司夫・注目

「キャッチミー・イフユー・キャン」とか「実写版サンダーバード」とか「ピンクパンサー」などのハリウッド映画のOPみたいなもの。

それぞれ、みんな切り絵っぽいアニメが動くんだ。

---

## 2: P・エロゲーのトシヒデ・注目

キャノンのペーパークラフトが参考にならないでしょうか？

<http://cp.c-ij.com/ja/contents/1006/>

---

## 3: P・ヒデカツ・法則

こんにちは！

段ボールって素材は面白いですよ。私はレーザーカッターを持っているのでなんか切ってみたいですね。

ところで私の考え方ですが、

1、段ボールだから

2、段ボールなのに

まずはどっちかで攻めます。

1 だったら段ボールだから厚みを活かす、色を活かすなど

2 だったら段ボールなのに固そう、食べられそうなど

---

## 4: P・岡田斗司夫・注目

>>3 P・ヒデカツ・法則さん

え？レーザーカッター持ってるんですか！

僕はまったく詳しくないんですけど、どれぐらいのサイズのものが加工できるんですか？

---

## 5: P・大野萌菜美・法則

>>1 P・岡田斗司夫・注目さん

コメントありがとうございます。

検索して参考にしてみます！

>>2 P・エロゲーのトシヒデ・注目さん

無料でペーパークラフトがダウンロードできるんですね。

すごいです...

>>3 P・ヒデカツ・法則さん

段ボールなのに、段ボールだからですか。なるほどです！

段ボールなのにを使っていきたいです。

でも、色はそのままにして、段ボールだからこそ出せる色合いを出したいです。

>>4 P・岡田斗司夫・注目さん

私も気になります！

P・ヒデカツ・法則さん、教えてくださいっ！！

---

クラウドシティ市民のP・大野萌菜美・法則さんの日記を紹介します。

大野さんは、クリエイター志望の学生さんです。

現在は、ダンボールを使った作品を定期的にクラウドシティやFacebookで公開して反響を呼んでいます。

そして先ごろクラウドシティ内の日記を通して、クリエイターとしてのお仕事を頂いたとの事、おめでとうございます。

大野さんの日記には、きっかけやり取りなども掲載されています。市民の方は、ぜひ読んでみてください。

この日記での注目点は、岡田斗司夫がすかさず、相談に対してアドバイスをしていること、さらに派生するP・ヒデカツ・法則さんのアドバイスに対して、自身のクリエイティビティが刺激されたのか、掘り下げるために質問を返していることです。

岡田斗司夫もまた、ガレージキット・自作模型製作の第一人者です。

今後のこの日記のやり取りによっては、次回制作される作品に更なる技術が取り入れられるかもしれませんね。

クラウドシティ市民の方は、この日記のやり取りを注目しておくと思いきや面白展開があると思いきや。

## 2-①「歌舞伎役者とお付き合いするにはどうしたらいいですか？」

---

岡田斗司夫さんのスマート読書・本はやっぱ面白い！(ブックオカ2011) 1分10秒～

<http://www.youtube.com/watch?v=TtcJpshNVXI>

一般公開中

質問「歌舞伎役者とお付き合いするにはどうしたらいいですか？正妻にならなくて可」

「奥さんにならなくてもいいから、歌舞伎役者とお付き合いするにはどうしたらいいですか？」ですか……考えてみよう。 お付き合いの定義にもよりますが、「誰かとお付き合いすること」って難しくないと思ってるんですよ。

僕の一番今までに聞いた「なるほどな」と思うのは、「お昼ごはん、おごります方式」、「ランチおごります方式」というやつで、どっかのビジネス系の本で読んで、「ああ言えるな」と思ったんですけど、よく学生とかと話したりするとですね、「今度呑みに行きませんか？」、「今度ご飯おごって下さいよ。」ってのがあるんですよ。

そういうの聞くと、僕は軽くイラッとしてですね、「なんで俺が、おまえにメシをおごんなきゃいけないんだよ」と思うんですけど、これたぶん、万人に共通だと思うんです。これを逆転の発想で「今度ご飯おごらせて下さい」って言っちゃうんですね。

「この人に会いたいな」って人がいたら、その人にメールで「ここのご飯美味しいです。おごらせて下さい。その時にちょっと話聞いて下さい。」って言ったら、かなりの高額所得者みたいなセレブの人であろうと、タレントみたいな人であろうと、誰でもかなりの確率であってくれと僕は思うんですね。

なんでかって言うと、人間は小金をもうかるのが好きなんです。ほんのちょっとした得が好きなので。

おまけにあってる時間というのは、ごはんを食べる時間でいいから「フルコースのフレンチ」みたいなやつではなくて、ほんのちょっとした600円とか500円ぐらいの「ランチプレート」みたいなもので、それでおごるって言ったら、食べる時間しか一緒にいなくて良いわけですから可能だと思うんですね。

「歌舞伎役者と付き合うにはどうしたらいいですか？正妻でなくても可」というのは、時々あつてごはんを食べるようなお付き合い、「相手に小さい得を与えるようなアプローチ」をすれば難しくないと思いますけど……。

俺、歌舞伎役者って人とお付き合いする機会はないですし、どちらかというとな歌舞伎役者という人たちを、僕は見下げてますので、そっから先は役に立たないですね。

歌舞伎役者を見下げてる理由を言うと、またややこしい事になるので言いませんけども……。

---

有名人とお付き合いするには、飯をおごれとアドバイスを送った岡田斗司夫、クラウドシティではこの動画をアーカイブしているのでクラウドシティ市民はいつでも見ることができます。

さて、この動画を見たクラウドシティ市民のP・愛甲えめたろう・理想さんが、岡田斗司夫に飯おごります！と日記で公開したところから、やり取りがスタートします。

まずは、日記本文を見ていきます。

## 2-②「岡田先生、飯奢らせてください！」

---

P・愛甲えめたろう・理想さんの日記／2012年12月11日

<http://blog.livedoor.jp/cloudcityblog/archives/21116359.html> (クラウドシティなう)

<http://go.otaking-ex.com/d3SN9ej1> (クラウドシティ)

参照資料・2011/10/29 福岡 ブックオカ講演

[http://cloudcity-ex.com/?m=pc&a=page\\_c\\_topic\\_detail&target\\_c\\_commu\\_topic\\_id=714](http://cloudcity-ex.com/?m=pc&a=page_c_topic_detail&target_c_commu_topic_id=714)

冒頭の雑談部分より

「人に会う簡単な方法」→「飯奢らせてくださいと言う」

というわけで、

### 岡田先生、飯奢らせてください！

場所は吉祥寺の岡田先生のお好きなお店で、先生に余裕のある日程（19時以降希望）を3～4教えていただければ駆けつけます！

と言ってみるテストですにゃ～。

.....この日記を偶然見てくれるのを待つ太公望モードなう。

---

この日記はクラウドシティ公式ブログ『クラウドシティなう』でも公開され、Facebookでたくさんの「いいね！」を獲得して話題になりました。

さて公開後本人の希望も叶い、岡田斗司夫が返事を日記にして公開しました。

岡田斗司夫の返事を見てください。

## 2-③「岡田斗司夫に簡単に会う方法」

---

P・岡田斗司夫・注目さんの日記／2012年12月11日

<http://blog.livedoor.jp/cloudcityblog/archives/21119373.html> (クラウドシティなう)

<http://go.otaking-ex.com/2CcNF3ok> (クラウドシティ)

クラウド市民「愛甲えめたろう」さんから、こんな申し出を受けました。

\*\*\*\*\*日記より引用\*\*\*\*\*

岡田先生、飯奢らせてください！

参照資料・2011/10/29 福岡 ブックオカ講演

冒頭の雑談部分より

「人に会う簡単な方法」→「飯奢らせてくださいと言う」

というわけで、

岡田先生、飯奢らせてください！

場所は吉祥寺の岡田先生のお好きなお店で、先生に余裕のある日程（19時以降希望）を3～4  
教えていただければ駆けつけます！

\*\*\*\*\*日記より引用\*\*\*\*\*

「好きなお店」と言われたので、一度は行ってみたいけど自腹では絶対に行けない「あら皮」なら行く、と答えました。

<http://tabelog.com/tokyo/A1314/A131401/13002897/>

このクラスの店なら、僕は「奢りますから一緒に食事しましょう」と誘われたらホイホイ着いていきます。

ちなみに僕は酒を飲みません。なので「高い酒を飲ませる」というお誘いはお断りします。

というわけで、岡田斗司夫と個人的に話をしたい、とご希望の方は「とんでもなく高い店で奢るよ」と誘っていただいたら、好奇心に負けてフラフラと着いていくはずですよ(笑)

でも、それだったらFREEexに入会して年会費12万の方が安いし、もっとぶっちゃけた話や個人相談もできるから、そっちがオススメなんですけどね。

<http://blog.freeex.jp/archives/51227540.html>

とりあえず「カネならある。一度だけ会いたい」という奇特な人向けの裏ルートご紹介でした。

。

---

愛甲さん良かったですね。石の上にも三年の甲斐あってお返事が届きました。愛甲さんの日記

に対して明快な回答がありました。

岡田斗司夫は自腹では“絶対”に行かないお店を選択するそうです。え！？意地悪？言ってることと違う！？

いえいえそんなことはありません。実は、この日記のクラウドシティ内でのコメントのやり取りを時系列順に読んでいくと、真意が分かるのです。

二つの日記のコメントを時系列順に並び替えて公開しますので読んでみましょう。

## 2-④ クラウドシティのコメントを読み解く

---

「岡田先生、飯奢らせてください！」 P・愛甲えめたろう・理想さんの日記が投稿される。  
以降この日記のコメントはA-O表記

---

A-1: P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想

おおー！

良かったら便乗させてください！

(日程は頑張っって合わせて見ます)

---

A-2: P・普通の釜・法則

誰か俺に好きなだけ食べていいよ♪とか寿司屋の前で言ってくんないかな～

超受け身(´▽`;) )

---

A-3: P・岡田斗司夫・注目

「好きなお店」と言われたので、一度は行ってみたいけど自腹では絶対に行けない「あら皮」なら行きます。

<http://tabelog.com/tokyo/A1314/A131401/13002897/>

このクラスの店なら、僕は「奢りますから一緒に食事しましょう」と誘われたらホイホイ着いていきます。

でも、高いからやめた方がいいですよ(笑)

---

「岡田斗司夫に簡単に会う方法」 P・岡田斗司夫・注目さんの日記が投稿される。  
以降この日記のコメントはB-O表記

---

B-1: P・普通の釜・法則

なるほど～では、俺レベルの吉野家のメニューならなんでも奢ります！では会えないんですね(笑)

---

B-2: P・岡田斗司夫・注目

>>B-1 P・普通の釜・法則さん

吉野家に行っても、僕のメリットはありませんから。

逆に「吉野家で奢ります」という人にいちいち会っていたら、不公平が発生します。

判断基準は

「年間12万のフリックスメンバーがもっとも得をするように、岡田斗司夫へのアクセスを設計する」と

発想してみてください。

---

B-3: P・コバヤシ・司令

沖縄に数人が毎月集まって月会費を徴収、一年に一度どかんと一年分もらうという互助会預金制度「モアイ（本州では無尽、頼母子講）」がありますが、これのクラウドシティ岡田さんバージョンってのはどうでしょうかね。

超高級店としても、お酒を呑まないとする、か〜なりお得にご飯って食べれるものから、予算は多く見積もって2人で12万円ぐらいでしょうか。

で、クラウドシティ版モアイに入りたい人を募集。12人集まったとして、その人たちは一ヶ月に一度飲み会を開催。その時に1万円ずつ積み立てる、と。で、一年に一度、岡田さんと12万円飯をサシで食うチャンスが産まれるとゆー。

つまり、岡田さんとサシ飯+超高級メシ体験権=12万円（一年に一度）

なお、おつりは、担当者の懐へ行きますので、もし10万円で済んだら、2万円はキャッシュバックですね。

岡田さんは毎月一度、超美味しいメシ食べますよ（笑）。

---

B-4: P・岡田斗司夫・注目

>>B-3 P・コバヤシ・司令さん

10万ぽんと払える人との会食は、僕にとってあんまり心的負担になりません。

でも1年コツコツ貯めた人に奢らせるのは、心が痛んで食事を楽しめないと思います。

なので、このモアイ形式はお断り。

僕が食事を楽しめないのでは、元も子もありませんから。

発想方法が「上手い抜け道を探す」になっています。

視野を切り替えて考えてみましょう。

---

B-5: P・コバヤシ・司令

>>B-4 P・岡田斗司夫・注目さん

なるほど。

あらためて「あら皮」を読んで見ましたが、肉一切れ7万円など、ちょっと普通の高級店とは次元が違うというか、ギャグのような店ですね。

岡田さんの好奇心を掘り起こす提案そのものが結構難しく、それを知り、支払うことのできる立場の人（ベラボーな高級店を継続的にキュレーションできる人）は自ずと限られるかもしれないですね。となると、ある意味、対等なビジネスモデルってことになるということだし

ようか。

・・・となるとホリエモンの顔が浮かびますが、彼のような立ち位置でかつ、それほどメディアや業界や論壇に露出していない人でしょうかね。案外、才能発掘の先鞭となる企画かもしれませぬね。

---

A-4: P・愛甲えめたろう・理想

>>A-3 P・岡田斗司夫・注目さん

フィー—————ッッシュ！！！！

唐突の誘いにご承諾下さりありがとうございます。

「あら皮」、いいですね。こんな機会でもないとも私も行けそうにないので是非ともご同席させてください。

先生のほうで都合のいい日程をいくつか挙げてくださればその中で私でも大丈夫な日取りでお店の予約を取らせて頂きます。

---

A-5: P・愛甲えめたろう・理想

>>A-1 P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想さん

ちと岡田先生とサシでお話したいので、今回は申し訳ありませんにゃ。

でもゴウさんとも色々とお話したい事がいっぱいですので、近いうちに予定を合わせてお食事しませんか？

>>A-2 P・普通の釜・法則さん

100円寿司ならお誘いしましょうか？

---

A-6: P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想

>えめたろうさん

えっ払えるんですか、あらかわ。

そりゃすごい。

でもあらかわですよ。高いですよ。

調べてから答えているのならいいのですが...

とりあえず僕は(あらかわの費用が払えないので)降ります、ごめんなさい～

---

A-7: P・愛甲えめたろう・理想

>>A-6 P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想さん

¥30k↑×2人=¥6～70k。

クラウドシティの年会費と+してもせいぜいが80k。

**FREEex**年会費が¥120kなので全く予算の範囲内です。

いい人戦略じゃないですが、こういう面白いことする人、珍しいでしょ？  
費用対効果として全く問題ないくらい美味しい話ですよ～♪

---

A-8: P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想

>>A-5 P・愛甲えめたろう・理想さん

おおー！是非是非！

嬉しいことばありがとうございます。

ではお食事、ご一緒させてください！

いつがいいでしょうか。

コミケ後、つまり年明け後が

えめたろうさんにも負担少なくて

良いかもしれませんね。帰宅したら日程出しますね。

---

A-9: P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想

>>A-7 P・愛甲えめたろう・理想さん

面白い！です！

---

A-10: P・岡田斗司夫・注目

>>A-7 P・愛甲えめたろう・理想さん

あら皮でステーキ食べたら、ひとり8万円ぐらいだよ。

食べログで「3万」と出てるのは、食べログの予算登録の最高額が3万までしかないから  
です。

<http://tabelog.com/tokyo/A1314/A131401/13002897/>

二人で食べるなら、15万以上を覚悟してください。

---

A-11: P・2月筆頭・涼平++・理想

これ、いいのかなあ。

【高い金を払えば、岡田斗司夫と会える】みたいなのはなしになっているのが、なんとなく  
違和感です。

「こんな面白い店知ってるから、代表どうですか！？ここ、ネットのどこにも紹介されて  
ませんよ！」とかなら、わかるんですけども。。。

---

A-12: P・岡田斗司夫・注目

>>A-11 P・2月筆頭・涼平++・理想さん

いや、これでいいんです。

**FREEex**メンバー以外のハードルはかなり高く設計すべきですから。

> 「こんな面白い店知ってるから、代表どうですか！？ここ、ネットのどこにも紹介されてませんよ！」

その場合、僕は一人で行きますよ(笑)

なんせ人嫌いだから。

---

A-13: P・2月筆頭・涼平++・理想

>>A-12 P・岡田斗司夫・注目さん

なるほど。かなり納得です。

まさに【奇抜な人向けの裏ルート】ですね。

---

A-14: P・愛甲えめたろう・理想

>>11 P・2月筆頭・涼平++・理想さん

> これ、いいのかなあ。

> 【高い金を払えば、岡田斗司夫と会える】みたいなはなしになっているのが、なんとなく違和感です。

あぁっ、全く意図と逆の方向になっていたことに気が付きました。

ご指摘ありがとうございます。

>>A-12 P・岡田斗司夫・注目さん

> いや、これでいいんです。

> **FREEex**メンバー以外のハードルはかなり高く設計すべきですから。

まずは謝罪をさせてください。

こちらの想定が足りず、ご迷惑をお掛けしたこと謝罪致します。誠に申し訳ありませんでした。また、文面からお気持ちを害されたのでしたらそのことも重ねてお詫び致します。

次に、クラウドシティなう。の方を見てのお礼です。

明確に「私に会いたいならこういうルートが開かれているんだよ」と提示してくださりありがとうございます。

先生の方ですでに開いて下さっているルートに従って手順を踏ませていただくと思います。

重ねて、ご迷惑をおかけしたことお詫びいたします。

---

A-15: P・愛甲えめたろう・理想

というわけで、**FREEex**入会申し込みさせていただきました。

ご迷惑をお掛けしましたが、今後ともよろしく願いいたします。

---

A-16: P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想

>>A-15 P・愛甲えめたろう・理想さん

freeEx入会おめでとうございます。活躍を期待しています！

それと(僕との)食事の件は年明け後でしたらこちらで調整できます。

(僕はあらかわでなくてもいいです(笑))

鬼が笑いそうな話ですが、都合のつきそうな日を二三提示くださいませー

---

A-17: P・ブレイン・183活字のマリ・理想

>>15 P・愛甲えめたろう・理想さん

急展開ですね！

バベルでお待ちしております^^

---

A-18: P・愛甲えめたろう・理想

>>A-16 P・8月筆頭・ゲーム好きゴウ・理想さん

>freeEx入会おめでとうございます。活躍を期待しています！

至らぬ身ですが、よろしく願いますにゃ〜！

>(僕はあらかわでなくてもいいです(笑))

了解です。まだ鬼に笑われそうなので、予定が見え次第、場所と時間を決めましょう。

>>A-17 P・ブレイン・183活字のマリ・理想さん

>急展開ですね！

>バベルでお待ちしております^^

是非ともよろしく願います〜

---

いかがでしょうか？ここまで見てもう一度、岡田斗司夫の日記を読みなおしてみると納得できますね。

最初のQ&Aはあくまでも『歌舞伎役者』や『タレント』『セレブ』向けであって岡田斗司夫向けではなかったのですね、岡田斗司夫は、一般のクリエイターやライターと違いFREEEXという組織を立ちあげ、『ギャラ』や『印税』を無料で活動することを成立させています。

「印税やギャラに頼らない活動とは何か？」このお話は次号以降に譲ります。

岡田斗司夫に会うには、「FREEEXに参加するか？」「クラウドシティに入るか？」「イベントに行くか？」「ニコ生を見るか？」「書籍を買うか？」ということですね。

またクラウドシティの日記は、複数の日記に横断的にコメントのやり取りがされることもありますので、市民の方々も話題になっている日記がありましたら、該当日記を見比べてタイムラインごとにやり取りを追いかけてみると今まで見えなかった発見があるかもしれません。

続いて、これらのやり取りから派生したクラウドシティ市民の日記を紹介します。

## 2-⑤「みんなそんなに岡田さんに会いたいの？」

---

P・ヤギ・法則さんの日記／2012年12月13日

<http://blog.livedoor.jp/cloudcityblog/archives/21183366.html> (クラウドシティなう)

<http://go.otaking-ex.com/YERcQ1AT> (クラウドシティ)

「岡田斗司夫に簡単に会う方法」

P・岡田斗司夫・注目さんの日記

<http://go.otaking-ex.com/93thUCD0>

岡田さんやえめたろうさんの日記(とそのコメント)を見て思ったのが、

「みんなそんなに岡田さんに会いたいの？」ということです。

クリエイターの方なんかだと、いろいろ聞きたいこととかあるのかなあ。

俺のような一般人は、もし「岡田さんと会えるよ!」と言われても、「いいですいいですごめんなさいすいません(((( ; °Д° )))」と言って逃げてしまいそうw

だって怖いじゃんw

いや、怒られるとかそういうことじゃなくて、岡田さんと話したら、自分がどれだけ知識がなく、経験がなく、愚鈍でつまなくて自己中心的で価値のない人間かを思い知ることになりますからねw

界王神と対峙したピッコロさんのごとく、

「次元が違いすぎる…」と絶望すること請け合いです…

それくらいは俺でもわかるorz

---

1: P・ヤギ・法則

「頭が悪い」って自覚できちゃうわけですね、俺って頭いいから(キリッ

---

2: P・JT・理想

こんな自分が岡田先生に会えたとして、先生のほうに何かメリットあるんだろうかと思うと、申し訳なくて「すいません、すいません」といたたまれない感じがします。

とはいいつつも、もし何か会えるチャンスがあったら厚かましく行くとも思います。だっ

て色々知りたいし。ちょっとでもお近づきになりたいからCCに来たんですもん（笑。会えるなら会いたいですよ。

---

### 3: P・研太郎・注目型

私はどの分野の人でも、その人が優れているのであればなんとかして会ってお話しに行きますね。

自分が優秀でないことなんか最初から分かっているのでとにかく優れたものや知性に触れたいと思って謙虚に、しかし貪欲に学びに行きます。

---

### 4: P・臼村さおり(占い師サオリ)・理想

正しい上から目線で発言すると（ほ、ほんとはそんな偉そうなこと言えるご身分ではないんだけど）

ヤギさんみたいな人ほど会いにいくとメリット大きいのでは。だって、傷ついて、すっかり、ぼろ雑巾みたいになりそう。そして、バージョンアップして生まれ変わるでせう。

---

### 5: P・モーリー・理想

私も岡田さんに会うのはちょっと気がひけるなあ  
バンバン質問できたらいいけれども  
しかし食べ物屋さんが気になる。

---

### 6: P・ギターのショウタロウ・015・理想

ああ、わかるけどやっぱり人と会って話すのは楽しいしためになりますよ。  
わたし頭悪いんであんまり吸収はできませんでしたが、それでも社員時代に会って話を聴いたりした時間は大きかったですから。  
今の自分の行動とか考え方にすごくいい影響を与えてると思ってます。  
気負わずにどんどん「凄めな人」に会える機会は活用したほうがいいと思いますよ。  
その時の落ち込みは意味ある落ち込みになると思います。  
わたしはお金ないんでおごったりは無理ですがw

---

### 7: P・やまこ・注目

なんかわかります...  
サシでご飯とかは「畏れ多い」と思っちゃいますねw  
クリエイターの人たちホントすごい！

私は普通に、アイドルと会いたいレベルで会いたいです。

一言二言、声をかけて貰って、握手でも出来ればそれでご飯3杯はいけますw

---

8: P・ヤギ・法則

>>2 P・JT・理想さん

>こんな自分が岡田先生に会えたとして、

>先生のほうに何かメリットあるんだろうかと思うと、申し訳なくてわかるわ〜。

俺なんかと合う時間があつたら、もっとみんなのためになること、面白いことをしててもらった方がいいと思いますねw

>ちょっとでもお近づきになりたいからCCに来たんですもん（笑。

確かにそれもあるんですが...

やはり俺は信者なのかな？w岡田さんを神格化してるのかもw

---

9: P・ヤギ・法則

>>3 P・研太郎・注目型さん

うおおお、ポジティブですね...

...あれ？ということは俺はネガティブなんでしょうか？ネガティブ戦略？

---

10: P・ヤギ・法則

>>4 P・臼村さおり(占い師サオリ)・理想さん

そんな気もするんですが...

絶望してしまって、まともに吸収できるかどうか...

そして、そこからいかに立ち直るか...

いろいろ不安ですorz

---

11: P・ヤギ・法則

>>5 P・もーりー・理想さん

質問なんて！(((( ; °Д° )))

それこそ自分の認識の甘さとかが浮き彫りにされて...あああああ...

絶対無理ですよ〜orz

そういう意味で、講演とかでいつもやってる、

ポストイットの質問って書きやすいんですよね。匿名だし。

---

12: P・ヤギ・法則

>>6 P・ギターのショウタロウ・015・理想さん

>気負わずにどんどん「凄めな人」に会える機会は活用したほうがいいと思いますよ。

>その時の落ち込みは意味ある落ち込みになると思います。

そうですね。そう思います。でも怖い....。

やっぱりこれはネガティブ戦略なんですかね？

自分が傷つくのが怖くて、成長の機会を逃してるんでしょうか....。

---

13: P・ヤギ・法則

>>7 P・やまこ・注目さん

>私は普通に、アイドルと会いたいレベルで会いたいです。

ですね〜w

俺も、こういう気持ちはけっこうありますw

---

14: 近藤ゆう・理想

私は岡田さんちから歩いて7分くらいのところに住んで、場所も知っているから、会うだけなら3日くらい家の前に居座れば会えると思うのですがw

会ってもしょうがないですね。

会うのであれば、どういう立ち位置の岡田さんと話すか？を考えないと。

私なら、一緒にエヴァの次の作品みて、そのあとに喫茶店に入り

2人きりで「検討」したいですw

---

15: P・ヤギ・法則

>私は岡田さんちから歩いて7分くらいのところに住んでて

近っw

>会うのであれば、どういう立ち位置の岡田さんと話すか？を考えないと。

そうですね。

でも、何をすればいいのかまったくわかりませんw

---

16: P・城谷尚也・理想

>>15 P・ヤギ・法則さん

>でも、何をすればいいのかまったくわかりませんw

すごくわかります。

でもあって話せば、やるべきことが見えてきますよ。絶対。

私は、11月～12月中旬まで関東にいたのですが、その時に何度となくお会いしてお話しました。

「おれ、クリエイターじゃないなって……やめようと思うんです。」と相談したらズバッとバツサリ回答いただきました。

「お話できて良かった。」凄く真摯に大した悩みじゃないんですけど聞いてもらって、前向きになれる答えをいただきました。

そして、そんな私は、なぜか今電子書籍を作っています。

「凄い人とお話する機会は、とても得るものが大きい」というのが私の感じたことです。

---

17: P・ヤギ・法則

>>16 P・城谷尚也・理想さん

実体験からのお話、とても説得力があります…

やはり怖がっているだけでは損ですね。

もしチャンスがあれば、積極的に行きたいと思います。

---

岡田斗司夫へのクラウドシティを通じての距離感について書かれています。

クラウドシティ市民から投げかけた日記に岡田斗司夫が答えて、それを見た人が日記で自分の意見を公開する。

やり取りを受けて、「私はどう思ったのか？」自分の日記にまとめて良いですし、該当の日記にコメントを書き込んでも良いのです。

ネットなどのヴァーチャル空間では、書き込みをしなければいけないものと同じとなってしまいます。(FacebookやTwitterもそうですね)

クラウドシティにかぎらず、「自分の意見を発信する」ということを意識してみてもどうでしょうか？

### 3 「岡田斗司夫の投票戦略」

---

P・岡田斗司夫・注目さんの日記／2012年12月16日

<http://blog.livedoor.jp/cloudcityblog/archives/21278135.html> (クラウドシティなう)

<http://go.otaking-ex.com/bOO88qqf> (クラウドシティ)

明日はいよいよ投票日。僕は一足先に不在者投票を済ませてきた。

僕がどこに投票したのか？それはどうでもいい話だ。

津田大介氏のブロマガによると、

<http://go.otaking-ex.com/SOWyqYdG>

立候補者でもない限り、公職選挙法違反——選挙期間中にやってはいけない行為はあんがい少ない。

たとえば現在フォロワー数が23万人以上、ネットでの影響力絶大の津田氏が「今回の選挙では〇〇党に入れましょう！」とかツイートしても大丈夫らしい。

ならば僕がどこに投票したのか、僕のオススメ政党がどこなのかをここに書いたってまったく問題ないはず。

…いやいや、問題ないのは「法的には」であって、社会人としてどうよ？

ふむ、そういうツッコミは認めます。

なので僕がどこに投票したのかは、ここには書かない。

「どう考えて投票したのか？」だけを書いてみます。

さて、僕は不在投票を済ませたわけだけど、実はそれどころか「向こう10年間の投票戦略」まで決めてしまった。

というのは、選挙のたびにいちいち政党の政策や、各候補者の公約実現率・出来なかった場合の弁明や反省態度までチェックするのはたいへんだからだ。そういう監視を全市民に強いる制度というのも、なんか無理ある感じがするしね。

これを読んでいる皆さんには、それぞれ個々人の選挙に対する考えや姿勢があるだろう。

それとは別のロジックになると思うけど、以下が「岡田斗司夫の投票戦略」だ。

まず、各政党や候補者の意見を調査する。

A: 賛同できる、または応援したい候補者や政党がある場合  
そこに投票する。当たり前だね。

B: 賛同できる、または応援したい候補者や政党がない場合

日本共産党に投票する。

ビックリした？

正直に話そう。

僕は「日本共産党には政権を取る見込みが絶対はない」と確信している。

共産党のポリシーや政治家だって、好きとは言えない。

どっちかという、なんか貧乏くさそうだし、支持とかしたら公安警察や権力に睨まれてイヤなことがあるんじゃないか、と思ったりもする。

政権をもし万が一とったりしたら、僕みたいなオタクの住み場所がない「健全な社会」が作られてしまいそうで、なんかイヤだ。

それでもBの場合は、僕は共産党に投票するだろう。

共産党の議席が増えたり、得票率が上がるのは現政権に対する示威行為、つまり

「国民はお前ら”政権を取りそうな政党全て”を信じてないぞ。だから”政権を取りそうな政党全て”と馴れ合いにならない、頑固で偏屈の集まり日本共産党に投票してやる。彼らを談合とかで取り込もうとするのはメンドくさいぞ。共産党の議席が増えると、議会運営もすっごくメンドくさくなるぞ」

という脅しになると思うからだ。

白票や棄権票でもいいかもしれない。

これに関してはいろんな意見があるだろう。参考リンクはここ。

<http://news.nicovideo.jp/watch/nw459905>

でも僕は白票や棄権はイヤだなあ。「僕の票」の効果率が悪いんだもん。

「彼ら」は共産党の議席数が増えたり得票率が上がる方が、白票や棄権票よりもずっとずっとビビるはずだ。

この発想と行動手順、あんがい使ってる人は多いかも知れない。

昔、宮崎駿さんからは直々に「若い者は共産党にでも投票しろ！自民に入れちゃダメだよ！」と説教されたし、マンガ家の西原理恵子さんは「私は共産党にしか入れない」と明言している。彼らが共産主義者とも、支持者だとも思えない。

たぶん、僕と同じような理路で行動してるんじゃないかなあ。

しかし、この戦略にも欠点がある。

日本共産党がマジで大躍進し、大幅に議席数を増やすと別の意味でヤバくなるからだ。

彼らは愚直に「なんでも反対」する。あらゆる談合に反する、ということは「現実的な落としどころで妥協してくれない」という意味でもある。

そんな政党が議席数を無闇に増やすと、議会は空転に次ぐ空転。予算審議もなにもかも止まってしまう。

なので、共産党が国会議員の10%を超えそうになったら、僕はこの投票戦略をやめる。  
みんなにも「はい、これおしまい～。別の手を考えよう」と呼びかけようと思う。

というわけで、選挙に行くかどうか迷ってる人、無力感を感じてる人はこの「どれもイヤだったら共産党」方式はいかがだろうか？

もちろん共産党がイヤな場合は、ドクターなんとかとかでもOKかもしれないけど。

ポイントは「どこに入れよう」ではなく「どうすれば自分の一票が有効に生きるか」で考えること。

そうすればAの場合でもBの場合でも、必要以上に悩まず投票に行けるんじゃないかな？

---

#### クラウドシティなうのコメント

1. サルサー 2012年12月16日 01:38

離合集散が一番そうだし、そういった投票の仕方も一つのあり方だと思いました。

---

2. あきら 2012年12月16日 09:28

随分前から、この方式で投票してます。

これには、選挙放送を楽しく見られるようになるという副産物もあります。

---

3. kh 2012年12月16日 11:41

白票も集計してほしいです。といつも思っています。

「誰にも投票しないけど、選挙には来ている」という数もきちんと出してくれたら、ずいぶん投票率もあがるきがするんです。

---

4. さいとう 2012年12月16日 12:06

その行動の結果は、「最も得票の多い党を利し二番目に迫る党のあしを引っ張る」以外ないとおもいます。ナンセンス。

---

5. nao 2012年12月16日 12:08

>僕がどこに投票したのかは、ここには書かない。

「日本共産党に投票した」に一万円賭けます。

---

岡田斗司夫 @ToshioOkada

明日の選挙に使えるかな？ちょっとヘンテコな「投票戦略」を岡田斗司夫が提案します。

#frex <http://fb.me/22rbMOBpt>

---

けんぬ @oma\_kennu

@ToshioOkada あ、そうでした。選挙行く約束されましたねー

---

mitokon @\_tommy\_mitokon\_

@ToshioOkada うわ！同じこと考えたwwここしばらくそう言うことをツイッターとかリアルに会う友人と話してたんですわww私も与党になりそうならそうしないけど、今のところそうなりそうにもないですしねwwww

---

fkurosawa 225@kurosawa

@ToshioOkada 全く共感です！大好きな岡田さんと同じことを考えていたなんて嬉しいです。ちょっとモヤモヤしてたけど、これで明日スッキリした気持ちで投票出来ます！ありがとうございました(^^)

---

ゴリラックマ @chibinekosan

@ToshioOkada 「投票戦略」とても参考になりました。明日、投票に行ってきます！

---

k.kenichi @yakko\_yakko93

@ToshioOkada 先生。私、選挙権を得てから20数年その戦略です☆何かしら今日の選挙がうれしくなりました。ありがとうございます！

---

反響も大きかったこの日記には、リツイートやシェア、コメントも多く書き込まれました。まず、公開されていた一部のコメントを見て頂いたところで、クラウドシティのコメントをみてみましょう。

---

1: P・池田アキト・理想

事実私も今回、無効票を入れるか共産党に入れるか迷いました。

あるいは比例代表に関しては本気の本気の泡沫政党（でも憎めないキャラクターの政党）に入れるかも。

一応候補はあったのですが、何分福岡では比例代表を受け付けてなかったです…。

比例代表って全国区じゃあなかったんですねえ シラカッ。

(頭の中での皮算用では国民の投票の1%を割り込む政党に投票すれば投票効率は100倍以上だぜとか勝手に思ってたんですが...笑)

---

## 2: P・痛車のヒロツグ・理想

>「僕の票」の効果率が悪いんだもん。

先だって私が「選挙に行くのは無意味」と申し上げたのがまさにそれです。

そもそも任せておけば望みのままの政治をしてくれる議員はいません。

当選した国会議員に対して直接「Aには賛成しろ。Bには反対しろ。Cの質問をしろ」と要求できなければなんにもならないのです。

それが議員に要求できるのは、その議員が当選するために一定の働きのあった団体か、もしくは当選後に献金をした人だけです。

今後はこのように細分化したニーズをすくい取る政治団体としてのSNSが出てくると思います。

---

## 3: P・おいち・注目型

毎回選挙では、白票を入れてるんですが、岡田さんの方式を採用して、共産党に入れました。

僕の地域では、自民党か共産党の候補者しかいなかったし、自民党に少しでも脅しをかけたかったので・・・

---

## 4: P・Qちゃん・理想

あくまで論理的ですね。

衆院選と同時にやる最高裁の判定も、同じ理屈で、全員にxをつける。

これは以前別の人に教えてもらった方法です。

いずれ日記に書きます。

---

比較して読んだだけで感じると思いますが、レベルの高いコメントが並びますね。これは、クラウドシティで活動をしていると、ちょっとしたコメントのやり取りでも、いつの間にか鍛えられてしまうのです。

クラウドシティでは、岡田斗司夫も市民のみなさんに相談することがあります。この日記の投稿についても「どうだろうか？」と市民の皆さんに質問をしています。特別に見てみましょう。

---

## 1: P・安井・法則

同じ話が何回も出てきて、『On Your Mark』のアニメのようです。

---

2: P・トシアキ・理想

>>1 P・4月筆頭・安井・法則さん

(大笑い)

これは「これぐらい繰り返さないとな若者は投票に行かないから」なのでしょうか？(笑)確かにこれだけ繰り返されると嫌でも頭に入ります。

---

3: P・トシアキ・理想

冗談はさておき、私もこれに近いことを考えたことがあります。

それを公言したことはありませんが。

これを読んで共産党の人は「バカにするな」と怒るのか、逆に「勧めてくれてありがとう」になるのか・・・ まあ、「福島復興には天皇を」と言っても右の方から特に反発も出てないようですし、左の方も同じですかね？

---

(この時点、日記の投稿のコピペミスで同じ文章が繰り返し表示されていた)

4: P・岡田斗司夫・注目

コピペミス、すまん。

で、これで大丈夫かな？

論旨に可笑しいところや、感情的に反発を呼びやすい部分はない？

---

5: P・4月筆頭・華氏・法則

風呂につかってスマホで読んでたので、操作を誤ったのかと思ってしまいましたwww

うちの親は、55年体制時代、ずっと批判票で共産党に投票してたみたいです。国家公務員のくせしてw

---

6: P・安井・法則

> それとは別のロジックになると思うけど、

とは、書いてあるのですが、

> というのは、選挙のたびにいちいち政党の政策や、各候補者の公約実現率・出来なかった場合の弁明や反省態度までチェックするのはたいへんだからだ。そういう監視を全市民に強いる制度というのも、なんか無理ある感じがするしね。

という問題点の解決策として、

> まず、各政党や候補者の意見を調査する。

>A: 賛同できる、または応援したい候補者や政党がある場合

> そこに投票する。当たり前だね。

と、なっています。

>各候補者の公約実現率

をチェックしないで、今言っている意見のみを調べた場合には、  
実現の可能性が低い(あるいは無理)にもかかわらず、  
ばら色の未来を語る人がいれば、その人に投票するというところに  
この論理ではなってしまいませんか。

実現する方法まで確認した上で、その人に同意して

投票するのかわからないのかを考えるのなら、

それでいいのですが、手間をあまり省いたような感じがしません。

提示している問題点と解決方法が結びついていないように感じられます。

---

7: P・安井・法則

>>6 P・4月筆頭・安井・法則さん

ぴったりと来る候補者がいなかったらこうしたら、  
という話でしたら、いいと思います。

---

8: P・岡田斗司夫・注目

>>6 P・4月筆頭・安井・法則さん

代案の文章があれば、書いてください。

---

9: P・横山哲也(猫写真のテツヤ)理想

もう公開されていますが、共産党の人は喜ぶと思いますよ。

義理で赤旗日曜版を取っていたことがあるんですが、

彼ら自身が「野党としての共産党」を自慢にしています。

少し前のキャッチコピーが「確かな野党」だったくらいです。

大学時代、ドイツ語の教科書で使ったのが「合法と非合法」という冊子で

共産党は、革命を目指す非合法的な次期政権政党を目指すのか、

それとも野党として権力のチェックだけをするのか、

という下りがありました。

学生紛争以降、日本共産党は野党として生きていくと決めたようです。

---

10: P・コバヤシ・司令

これと同じ戦略を展開している友人がいます。案外「俺も俺も～～」となるんじゃないかなあ、と盛り上がることを期待しています。

共産党の大規模な応援演説を見ていると

- 1・お年寄りが多い。
  - 2・あまり活動家風はない（のぼりやはちまきなど、運動系のイメージを使わないように心がけているらしい）。
  - 3・志井委員長のしゃべりが、やたら癒し系でほっこりなど「共産」という言葉のネガティブイメージを、日夜払拭する努力をさまざまメンタリズムしているようです。
- おそらく共産党という名前を「改名」する時が、この戦略の辞め時でしょうね。たぶん来世かパラレルワールドになると思いますけれど。
- 

11: P・コバヤシ・司令

>>10 P・コバヤシ・司令さん

あ、上記の例は、

有権者、つまり応援演説を聞いている人たちの特徴でした。すいません。

↓

- 1・お年寄りが多い。
  - 2・あまり活動家風はない（のぼりやはちまきなど、運動系のイメージを使わないように心がけているらしい）。
- 

12: P・安井・法則

>>8 P・岡田斗司夫・注目さん

自分で書くとなると難しいですね。

また、すでに公開済みで機を逸しておりますが、方向性としては以下のように考えて見ました。

-----

自分の思うとおりの候補者、理想の候補者がいればその人に投票すればいい。

ただ、応援したい人がいない場合に、候補者の中でどの人が比較的ましなのか、比べてみてもよく分らない。

どの人も一長一短。

いくら調べてもどの人に託していいか分らない。

そういう時に使えるいい方法がある。

-----

問題点を、自分の望む候補者がいない時に、

どうやって選んでいいか分らないという風にしてみました。

---

13: P・岡田斗司夫・注目

>>12 P・4月筆頭・安井・法則さん

ご苦労さま。

読んだけど、あまり良くないね。

原文のキレもなくなっちゃってる。

AとBの並記だからこそ、原文は「え？」と思わせる力がある。

でもこの文章だと前半は後半に誘導するだけの理屈に見える。

人の心を動かさない文章だよ。

文章の目的は「人の気持ちを動かす」です。

論理的な整合性は、その手段にしかすぎない。

手段に囚われて、目的を見失っちゃダメ。

なので>>6を却下します。

---

14: P・安井・法則

>>13 P・岡田斗司夫・注目さん

はい。

読んだ感じ、原文のほうがとてもいいです。

自分でもそう思います。

書いてみてもいい文章が作れませんでした。

手段と目的の話、ありがとうございました。

---

岡田斗司夫の相談に理屈民族の本領発揮です。

様々な視点から文章を読み解き、更に良くしようとブレインストーミングが始まり、それらのやり取りを通じて課題を出されることもあるんですね。

提出された回答に対して、添削やアドバイスも行われています。

クラウドシティでは、公式ブログやFacebook, Twitterで皆さんの目に届く前にこのようなやり取りが行われることもあるんですね。

クラウドシティは、SNS上でのやり取りを通じた学びの場でもあるのです。

いかがでしたか？クラウドシティの中の様子をほんの少しだけ紹介しました。

クラウドシティ公式ブログ『クラウドシティなう』では、一部の日記が本文のみですが、公開されています。

blog上でコメントをつけることができますので、気になる日記など見つかったらコメントをしてみてください。

また、岡田斗司夫公式ブログ『岡田斗司夫なう。』でも、週に一回気になる公開日記をまとめていますので、どんなことがあったのか楽しむことができます。

年が変わり何かが起きそうな気がします。次号もホットな話題をお届けします。

それでは皆さんあけましておめでとうございます！これからも月刊岡田斗司夫のクラウドシティ編集部とともどもよろしくお願いいたします！

---

クラウドシティ内にどのようなコンテンツがあるのかは、トップ記事『岡田斗司夫の「クラウドシティ入門」』にまとめてあります。

「自由にコンテンツを見てまわりたい」、「日記を見たい、書いてみたい」という方の為に入植にあたって見ておいたほうが良い場所をまとめておきます。ここからさきはリンク集としても使えますよ。

### ①ごあいさつ（初めての方へ）

(<http://blog.freeex.jp/archives/51306099.html>)

ここに外部公開されている岡田斗司夫関連のリンク先などがまとめてあります。

### ②「岡田斗司夫のクラウドシティ」案内

(<http://blog.freeex.jp/archives/51347974.html>)

トップ記事とほぼ同じ内容ですが、最新の内容が更新されています。

### ③岡田斗司夫と仲間になろう！

(<http://blog.freeex.jp/archives/51227540.html>)

岡田斗司夫が考える「仲間とは何か？」，「FREEexとは何か？」について書かれています。

### ④岡田斗司夫とFREEexとクラウドシティ

(<http://blog.freeex.jp/archives/51346348.html>)

クラウドシティの設立理念などが書かれています。

## ⑤クラウドシティ (<http://cloudcity-ex.com/>)

トップ画面に申し込みボタンがあります。

また、岡田斗司夫の楽しみ方はクラウドシティや本誌だけではありません。予算に併せて様々な楽しみ方ができるのも魅力の一つです。

---

### 1. いろいろ：無料プラン

- ・ 岡田斗司夫公式ブログ『岡田斗司夫なう。』  
(<http://blog.freeex.jp/>)  
→ 岡田斗司夫の活動の無料レポートやコンテンツの公開など最新情報をお届けしています。
  - ・ クラウドシティ公式ブログ『クラウドシティなう』  
(<http://blog.livedoor.jp/cloudcityblog/>)  
→ クラウドシティに入植する市民（岡田斗司夫含む）の一部日記を公開しています。
  - ・ 岡田斗司夫チャンネル  
(<http://ch.nicovideo.jp/channel/ch3220>)  
→ ニコニコ動画で視聴することができる映像のアーカイブ。
  - ・ 岡田斗司夫 個人 F a c e b o o k  
(<http://www.facebook.com/frex.otaking>)
  - ・ 岡田斗司夫 公式 F a c e b o o k  
(<http://www.facebook.com/okadatoshio>)  
→ 小さなことから大きなことまで、近況を詳しく知りたいならここ。
  - ・ 岡田斗司夫 T w i t t e r  
(<http://blog.freeex.jp/archives/51338806.html>)  
→ 気軽にフォローしておきたいなら、ここ。
  - ・ オタキングスペースポート ライブラリィ  
(<http://www.netcity.or.jp/OTAKU/okada/library/lib.html%E3%80%80>)  
→ 旧書籍のアーカイブ。
  - ・ レコーディングダイエット2.0のススメ  
(<http://putikuri.way-nifty.com/>)  
→ 旧ブログ・プチクリ～レコダイ時代（2005年11月21日～2010年4月8日）
  - ・ 岡田斗司夫のゼネラル・プロダクツ  
(<http://okada.otaden.jp/>)  
→ 旧ブログ・オタクネタ中心（2008年06月19日～2010年05月28日）
- 

### 2. 無料メルマガ：岡田斗司夫エクスプレス

(<http://blog.freeex.jp/archives/51349228.html>)

最新の岡田斗司夫をピックアップし、おもしろいところだけをダイジェストでお手元にお届けします。

時間はないけど、おもしろいところだけつまみ食いしたい方向け。

毎週月曜、お届け予定。お申し込みは登録が必要です。

申込はこちら (<http://www.mag2.com/m/0001148694.html>)

---

### 3. 毎月210円プラン—メルマガ：岡田斗司夫プレミアム

(<http://blog.freeex.jp/archives/51349235.html>)

岡田斗司夫の講演や対談の書き起こしテキストをお届けします。

さらに講演音声のmp3データもプレゼント。

忙しくて時間がない方、通勤時間にスマホやタブレット端末でご利用いただけます。

また、気になるテーマは、後日メールを検索すれば即探することができます。

お申込み・サンプル (<http://www.mag2.com/m/0001575247.html>)

---

### 4. 毎月315円プラン—電子雑誌：月刊岡田斗司夫のクラウドシティ

(<http://p.booklog.jp/series/detail/214>)

本誌です。岡田斗司夫の電子書籍が見れる電子雑誌です。

「あなたを天才にするスマートノート」、「人生の法則」、「評価経済社会」など豪華連載でお届けします。

またクラウドシティ内のホットな情報もお届け致します。

サンプル本 (<http://p.booklog.jp/book/62822/>)

本誌 (<http://p.booklog.jp/book/62823>)

---

### 5. 毎月525円プラン—ブロマガ:岡田斗司夫ブロマガチャンネル

(<http://ch.nicovideo.jp/channel/ex>)

岡田斗司夫の過去映像が見放題のプランです。

岡田斗司夫の講演、対談、鼎談などは、必ず録画されます。

もちろん最新映像を、惜しみなく公開予定です。

したがって、ここで、すべてのライブ活動が見られるのです。

音声のみバージョンや文字起こしもご用意しています。

しかも、最新情報も文字起こしや音声データも、メールでお届けします。

詳細はこちら (<http://ch.nicovideo.jp/channel/ex>)

お申込みはこちら (<https://secure.ch.nicovideo.jp/bylaw/ch923>)

---

## 6. 年間1万円プランーSNS：クラウドシティ

(<http://blog.freeex.jp/archives/51347974.html>)

岡田斗司夫のSNS「クラウドシティ」に参加できます。

5) で公開されている過去映像のアーカイブはもちろん、4) で公開されている電子書籍化された単行本なども見ることができます。それどころか、発表前の単行本のデータから、編集者との打ち合わせのやり取りまで全てがガラス貼りとなっています。

岡田斗司夫は、そこで日記を書いたり、ゼミを開いたり、参加者の日記にコメントしたり、facebookで引用して感想書いたり・・・様々な活動をしています。

お申し込みはこちら (<http://blog.freeex.jp/archives/51347974.html>)

---

## 7. 年間12万円プランーFREEex

(<http://blog.freeex.jp/archives/51227540.html>)

岡田斗司夫の仲間になりたい人、岡田斗司夫を助けたい人、岡田斗司夫と働きたい人のための団体です。SNS「バベルの塔」を活動拠点に、イベントや会議、このブログなどネット活動、書籍執筆など、様々な活動を行っています。

興味のある方はこちら

(<http://blog.freeex.jp/archives/51227540.html>)

---

お得なコンテンツを様々ご用意しております。皆さんそれぞれの楽しみ方が見つかるはずで

。

時代の一步先に行く、刺激的な岡田斗司夫コンテンツを楽しみください。

## 月刊「岡田斗司夫のクラウドシティ」創刊号

---

出版日 : 平成24年12月31日

コメント (<http://p.booklog.jp/book/62823>)

ブックログ本棚 (<http://booklog.jp/item/3/61803>)

出版

ロケット出版 (<http://p.booklog.jp/users/rocket-inc/profile>)

著者

岡田斗司夫 (FREE e x 代表)

月刊岡田斗司夫のクラウドシティ編集部

編集・ライター

城谷尚也 (FREE e x)

協力

FREE e x (<http://blog.freeex.jp/>)

出典・スタッフ

[岡田斗司夫の「クラウドシティ入門」]

原案

岡田斗司夫 (FREE e x 代表)

構成・編集

松原由布子 (FREE e x)

[ま、金ならあるし～岡田斗司夫のお買い物日記～]

アーカイブ協力

忠内寿弘 (FREE e x)

構成・編集

城谷尚也 (FREE e x)

[あなたを天才にする スマートノート]

構成

福田文 (FREE e x)

リライト協力

のぞき見のミホコ (FREE e x), 神田貴成 (FREE e x)

## ノート研究担当

インストラクターのアオイ，聞き上手のヒロノリ，ケイタ

## ノート研究

浪速のダイスケ，岐阜のアカネ，インストラクターのアオイ

竹内寛之（FREE ex），神田貴成（FREE ex）

横山哲也（FREE ex）

## ノートデータ協力

ぐうたらのケンジ，パンヤス

神田貴成（FREE ex），竹内寛之（FREE ex）

岡ミワコ（FREE ex），ケイタ

協力 後藤みわこ（FREE ex）

## 渉外担当

書籍担当のミツノリ，インストラクターのアオイ

電子書籍版制作 おおしま☆ゴー（FREE ex）

## [人生の法則]

### 全体構成

菱川観道（FREE ex）

### 小説構成

のぞき見のミホコ（FREE ex）

### 小説執筆

「アヤノの物語」インストラクターのアオイ

「ショウタの物語」ケイタ

「エリカの物語」武蔵美のナツキ

「トモユキの物語」ケイゴ（FREE ex）

「サヨコ先生の物語」のぞき見のミホコ（FREE ex）

### 小説アンカー

後藤みわこ（FREE ex）

### 解説部執筆

菱川観道（FREE ex）

### 執筆補佐

のぞき見のミホコ（FREE ex），浪速のダイスケ

神田貴成（FREE ex）

### 渉外担当

書籍担当のミツノリ，菱川観道（FREE ex）

### 協力

体操のタイゾウ，暇つぶしのカズユキ

電子書籍版制作

おおしま☆ゴー (FREE e x)

[評価経済社会]

リライト

浪速のダイスケ, マクガイヤーのリュウタロウ (第1章) (FREE e x)

資料作成

聞き上手のヒロノリ, まとめ上手のキキ, 松原由布子 (FREE e x)

協力

神田貴成 (FREE e x), 教え人のシゲル (FREE e x)

横山哲也 (FREE e x)

渉外担当

書籍担当のミツノリ

スペシャルサンクス

猫町倶楽部, アウトプット勉強会の皆様

電子書籍製作

おおしま☆ゴー (FREE e x)

[岡田斗司夫のクラウドシティ]

日記協力

「クリエイターとして始めてお仕事をいただきました！」

P・大野萌菜美・法則 (クラウドシティ市民)

「岡田先生、飯奢らせてください！」

P・愛甲えめたろう・理想 (クラウドシティ市民)

「岡田斗司夫に簡単に会う方法」

P・岡田斗司夫・注目 (FREE e x代表)

「みんなそんなに岡田さんに会いたいの？」

P・ヤギ・法則 (クラウドシティ市民)

「岡田斗司夫の投票戦略」

P・岡田斗司夫・注目 (FREE e x代表)

構成・ライター

城谷尚也 (FREE e x)

電子書籍プラットフォーム

ブックログのページ (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ